

vol.28 july. 2017



拓海

「海」を切り開く匠の業と心

CONTENTS

2017年 出会い	
入学特集	
入学・進学のみなさんへ	3
在学生から新入生のみなさんへ	7
先輩留学生から新入生のみなさんへ	13
新学部の紹介	14
大学での学び方	16
卒業生より 業界で活躍しているOB・OGの方々	29
大学祭特集 ～海王祭～	31
新任教員の紹介	32
ニュース & トピックス	33
学生相談のお知らせ	41
お知らせ	44

◆2017年 出会い

■入学特集

◎入学・進学のみなさんへ

- 鉄は熱いうちに… 竹内 俊郎…… ③
 新生生の皆さん、入学おめでとうございます
 佐藤 秀一…… ④
 新生生の皆さんへ 塚本 達郎…… ⑤
 海洋資源環境学部に入學されたみなさんへ
 岡安 章夫…… ⑤
 大学院へ入学・進学した皆さんへ井関 俊夫…… ⑥

◎在学生から新入生のみなさんへ

- 新入生の皆さんへ 木村 朝陽…… ⑦
 新入生のみなさんへ 坂内千佳子…… ⑦
 新入生の皆さんへ 田辺 傑作…… ⑧
 新たな船出 片岡将之輔…… ⑧
 新入生の皆様へ 樋口美奈子…… ⑨
 新入生の皆さんへ 高木 智広…… ⑨
 新入生の皆さんへ 河野 恵実…… ⑩
 新入生に向けて 水谷波南香…… ⑩
 海洋大生となった皆さんへ 西山 潤…… ⑪
 新入生のみなさんへに向けて 木藤 拓也…… ⑪
 新入生のみなさんへ 村松 拓実…… ⑫
 新入生に向けて 白井 拓実…… ⑫

◎先輩留学生から新入生のみなさんへ

- 先輩留学生から新入生へ 徐 鵬…… ⑬

◎新学部の紹介

- 海洋資源環境学部海洋環境科学科の紹介
 田中 祐志…… ⑭
 新学科「海洋資源エネルギー学科」紹介
 宮本 佳則…… ⑮

■大学での学び方

◎学科の特色ある実習の紹介

- 2年生の夏の始まり『漁業科学実習』！
 塩出 大輔…… ⑯
 ベトナム海事大学との国際海事訓練セミナー
 高木 直之…… ⑰

◎実習感想記

- 動物生態学実習を体験して 柴崎 翔大…… ⑱
 実習感想記 食品生産学実習 吉良 透…… ⑱
 実習体験記 泉 咲季…… ⑲
 乗船実習を通じて 田中ちひろ…… ⑲
 実習感想記 井上 恭兵…… ⑳
 実習感想記 飯泉 紗南…… ⑳
 一カ月航海と私 引地伸太郎…… ㉑

◎資格取得に向けて

- 教員免許取得に向けて 洞 靖子…… ㉒
 資格取得に向けて 笠井 崇弘…… ㉒

◎大学院で学べること

- 海洋資源環境学専攻(博士前期課程)
 荒川 久幸…… ㉓
 海洋管理政策学専攻(博士前期課程)
 川辺みどり…… ㉓
 応用生命科学専攻(博士後期課程)
 大迫 一史…… ㉓

◎卒業論文・修士論文への取り組み方

- 卒業論文への取り組み方 岡松 千真…… ㉔
 卒業論文への取り組み方 森 隆人…… ㉔
 修士論文への取り組み方 広瀬 正尚…… ㉔

■卒業生より

◎業界で活躍しているOB・OGの方々

- 業界で活躍している卒業生より 橋本 凌平…… ㉕
 業界で活躍している卒業生より 川嶋 瞬…… ㉕

■大学祭特集

- 第57回 海王祭を終えて 小関 優大…… ㉖
 渡部 太郎

■新任教員の紹介

- 海洋資源エネルギー学部門 竹山 優子…… ㉗

■ニュース&トピックス

- ・平成28年度 学位記・修了証書授与式 …… ㉘
- ・平成29年度 入学式 …… ㉙
- ・平成28年度 学生表彰授与式、学業優秀学生
 奨学金授与式、各賞表彰授与式 …… ㉚
- ・海洋資源環境学部の開設記念式典、
 講演、祝賀会 …… ㉛
- ・平成28年度卒業者の就職先 …… ㉜

■学生相談のお知らせ

- ・学生相談室について …… ㉝
- ・学生支援教員一覧 …… ㉞
- ・学生相談体制について …… ㉟

■お知らせ

- 図書館からのお知らせ …… ㉟
- 国立科学博物館および国立美術館の
 利用について …… ㊱
- 国立劇場の利用について …… ㊱
- 緊急時連絡システムへ登録を！ …… ㊲
- ネットワーク障害防止のための注意事項 …… ㊲

2017年 出会い

入学特集

入学・進学のみなさんへ

鉄は熱いうちに…

学長
竹内俊郎



新入生および進学生の皆さん、早3か月が経ちました。本学でのキャンパスライフを満喫していますか？ だいぶ学園生活にも慣れてきたころだと思います。そのほかの

学年の皆さんは、しっかり勉学に励んでいますか？

“鉄は熱いうちに打て”という諺があります。まさにこの諺どおりの出来事を、つい先ごろ目のあたりにしましたので、まずそれをご紹介したいと思います。本学の海洋科学部（本年4月から海洋生命科学部と海洋資源環境学部）では、平成26年度入学生から4年次への進級要件としてTOEIC600点を掲げ、また平成28年度からは、受験生に対して外部英語資格試験などを出願要件に導入しました。本年4月に4年次生に進級した皆さんは、この4年次進級要件であるTOEIC600点をクリアした最初の学生諸君であり、その達成率は97.5%と素晴らしい結果でした。いまの4年次生のTOEICスコアの入学時からの軌跡をたどってみたいと思います。入学時の平均スコアは482点であり、600点達成率は11%でした。この時点でも、全国の大学

（全学部）1年生の平均スコア424点を大きく上回っていました。2年次4月の達成率は47.2%で、3年次4月で57.6%でした。そして、進級要件を確認する3年次2月末時点には97.5%の達成率で、その平均スコアは約650点に達しています。3年次1月の時点で達成率が93%であったことから、私はぜひ95%は達成してほしいと、周囲に話していました。それが、97.5%としっかり目標をクリアしたことに驚きとともに、学生の皆さんのやる気を感じました。あらためて若い皆さんのバイタリティーとともに、無限の可能性があるだということを確認しました。もちろん大変な努力をされた学生も多かったと思います。

いまの3年次生、そして外部英語資格試験出願要件を満たして合格した2年次生と1年次生について、入学時のTOEIC-IPの平均は、先ほど示したいまの4年次生の入学時の482点に対して、486点、500点、そして今年は517点と着実に向上しています。今年の新入生は先輩方より少しは楽に進級要件TOEIC600点をクリアできるのではないのでしょうか？でも安心してはいけません。不断の努力が必要です。

外部英語資格試験の出願要件とTOEIC600点の進級要件が求められているのは、海洋生命科学部と海洋資源環境学部であり、この二つの学部が関連する大学院の専攻では、80%以上の授業が英語で行われています。ですから、大学院に進学しても英語の力を十分に発揮できます。

一方、海洋工学部の皆さんはこれらの要件はありませんが、グローバル・リーダーシップ・イニシアチブ（GLI）プログラムと言って、一定以上の英語能力や多種多様な人間関係の中、相手を気遣い、お互いの意見を尊重しながらグループに道標を示す資質を求め、それ

を認定するプログラムがあります。その認定数（延べ人数）は、平成26、27年度が24名でしたが、平成28年度は51名と倍増し、意欲が感じられます。

全学部共通のプログラムとして、いわゆる海外探検隊（海洋生命科学部と海洋資源環境学部では、「海外派遣キャリア演習」として平成25年度から、海洋工学部では「長期学外実習（海外）」として本年度から開設）プログラムがあり、この4年間で141名の学生が1か月間、台湾、香港、マレーシア、シンガポールおよびタイで活動しています。そして、このプログラム受講生から、その後JICA（海外青年協力隊などの活動で知られる国際協力機構）との連携プログラムで、セントルシアやコロンビアに1か月間の研修に出かけたり、「～トビタテ！留学JAPAN日本代表プログラム～」に採択されて、海外の大学・機関に留学するなど、行動範囲が飛躍的に広がっています。昨年度は100名（全学生の4%弱）の学生が大学の各種制度に基づく海外派遣や留学を経験しています。

皆さんの中には、理系の大学で、また専門性の高い実学を旨としている東京海洋大学で、なぜ、英語ばかりやらせるのかと自問自答、あるいは不満を口にした学生もいたことでしょう。確かに英語は単なるツールにすぎません。でも、このツールは今後ますます重要になってきます。専門の知識を生かすだけでなく、国際人・教養人として世界を渡っていくには必須です。グローバル化の波は確実に広がっています。もちろんこの先には揺り戻しもあるかもしれませんが、英語の能力を高めておくことは、これからの皆さんの人生にとって、損になることは決してありません。

先日、学外の有識者が出席している会議の折に、本学におけるTOEICによる4年次進級要件を紹介したときは、「600点をクリアしたら、次は730点で、その次は860点ですね。」と言われました。世間ではそのようなハードルを設けて社員を教育、あるいはモチベーションを高めているようです。皆さんも、自らぜひ高い目標を設定して、挑戦してみてください。若い時に苦労すべきです。

皆さん！英語を通して、まず鍛えてください。そして、そのほかのことにも波及させてください。それが、将来のためになります。“鉄は熱いうちに打て”を自ら忘れずに！皆さんの大いなるやる気を期待しています。

本学は“ビジョン2027—海洋の未来を拓くために—”を掲げ、学部・大学院において、グローバル社会に対

応した教育プログラムを実施し、皆さんが世界で羽ばたけるよう、教職員一同で後押ししています。

新入生の皆さん、 入学おめでとうございます。



海洋生命科学部長

佐藤 秀一

東京海洋大学海洋生命科学部は、海洋、湖沼、河川に生息する多種多様な生命体と人間との共存、環境、食糧等の諸課題に関わる基礎から応用に至るまでの研究を行うことにより、人類・社会の発展に貢献することを教育研究上の目的として、海洋科学部より生れ変わりました。これまで以上に、海だけではなく水に関連した色々な生命現象を広範囲にわたり教育研究する学部です。それぞれ所属する学科で担当するエリアは異なりますが、海、水に生息する生命体と人間活動に関連する教育研究を行っています。

さて、オリエンテーションでも、お話しした様に大学での勉強方法は高校までの学習方法と大きく異なります。特に、専門科目では、新しい知見、教科書にないこと、答えのないことを習う場合が多くあります。この為、しっかりノートを取り、復習をして下さい。本学の先生たちは、学生さんの皆さんを勉強の出来る人と思って授業をしていますので、講義の進み方が早いかもしれません。わからないことがあったら、積極的に聞きに行ってください。それから、どの先生がどんな研究をしているのかをホームページや研究論文等で閲覧し、興味のある研究をしている先生を訪ねてみて下さい。先生方も大歓迎してくれるはずですよ。高校までの受け身の勉強から、能動的な勉強に転換して下さい。すなわち、learnからstudyへの転換です。そして、inputした知識をoutputできる能力を身につけて下さい。海洋大の校歌には、「好きなことを好きなだけ学べることは 俵せ者だよ それが出来るのは 現在（いま）」という歌詞があります。まさに皆さんは、この特別な「現代（いま）」が始まったところです。大いに大学生活をenjoyして下さい。

水、海は地球を隔てることなく一つに繋がっています。皆さんも日本に留まることなくグローバルに羽ばたいて下さい。海洋大では皆さんが世界に羽ばたくことをお手伝いするプログラムを沢山用意していますので、積極的に参加して下さい。その為にも、海洋生命科学部の4年生への進級条件であるTOEICスコア600点を出来るだけ早い時期にクリアすることを希望します。

それでは、大学生活が充実したものとなることを期待しています。

新入生の皆さんへ



海洋工学部長
塚本 達郎

入学おめでとうございます。新入生の皆さんも大学に慣れて、少し落ち着いて自分のペースで生活できている頃でしょうか。

皆さんの中には、英語が苦手だから海洋工学部（特に海洋電子機械工学科）を受験したという人もいます。海洋工学部では、英語に関して外部試験の評価を入学試験の出願要件や入学後の進級要件として課すことをしていません。また、就職に際して、特に英語の能力について強く要求しない企業もあります。しかしこれは、仕事に英語は必要ないということではなく、英語以外の能力、例えば専門的な知識やコミュニケーション能力、忍耐力などを重視して採用するが、入社後（あるいは内定後）には、しっかりと英語も勉強してくださいということです。

もちろん海洋工学部でも英語ができなくても良いと考えているわけではありません。人はそれぞれ得意不得意があり、多少英語が苦手でも、入学後に専門科目を学ぶのに必要な数学や物理が得意な学生にも入学してもらいたいと考えているからです。

入学後からでも十分に間に合いますので、英語が得意な人も、苦手な人も、それぞれが目標をもって英語能力の向上に努めてもらいたいと思います。4月のオリエンテーションでも説明があったかと思いますが、海洋工学部では、GLI（グローバル・リーダーシップ・

イニシアティブ）プロジェクトを推進しています。これは、現代社会で要求されるグローバルな課題に果敢に挑戦し、異文化の中に身を置いても優れたリーダーシップを発揮できる学生の資質を認定する、海洋工学部独自の制度です。海外インターンシップにも力を入れており、昨年度は24名の学生を海外へ派遣しました。今年度もさらに多くの学生を派遣できるよう計画を進めています。

是非ともGLIの認定、海外インターンシップへの参加を目指して、英語によるコミュニケーション能力向上に努めてください。

海洋資源環境学部に 入学されたみなさんへ



海洋資源環境学部長
岡安 章夫

海洋資源環境学部にご入学のみなさん、おめでとうございます。みなさんは本学海洋資源環境学部の第一期生となります。学部の教員一同、みなさんの活躍に大いに期待しているところです、そのために最大限のサポートをしたいと考えています。

海洋資源環境学部には、海洋環境科学科と海洋資源エネルギー学科があり、環境との調和を図りつつ海洋の高度利用を行うため、その成り立ちや様々な技術に関する教育・研究を行っています。これらについては、カリキュラムに沿った学修によって、みなさんの身につけていくようにデザインされています。このほかの特徴として、1) 豊富な実習や実験科目を配した実践的教育、2) コミュニケーション能力を含めたグローバル教育、3) 教育の質の高度化、が挙げられます。1)、2) については、もう既にある程度知っていると思いますので、ここでは3) について説明します。

よく日本の大学は、「入学は難しいが卒業は易しい」と言われます。入学については、確かにみなさん、入試のために一生懸命勉強し、多くの競争と関門をくぐり抜けてきたことと思います。一方、卒業については、残念ながら社会や一般企業の大学教育に対する評価はそれほど高くないように感じます。それ故、学生が入学後の努力で得た知識や

多様な能力も評価されにくい、という問題があります。これは、学生が学ぶべき内容を大学が分かり易くきちんと設定できていないことが主要な原因の一つと思われます。

海洋資源環境学部では、今後各科目において、適切な学修到達目標と自習課題を含めた具体的な学修内容・学修時間の設定により、所定の学修が行えるようにしていきたいと考えています。またそのことを社会に十分説明することによって、卒業生が社会から適正な評価を受けられるよう、学部として努力を行っていききたいと思えます。みなさんにとっても教員にとっても決して楽なことではありませんが、一緒に頑張りましょう。

大学院へ入学・進学した皆さんへ



大学院海洋科学技術研究科長
井 関 俊 夫

6 華やかな入学式から約3ヶ月が過ぎました。大学院に入学・進学された皆さんの生活も落ち着いたものとなり、勉強や研究に集中する毎日を過ごされているのではないかと思います。この4月に大学院に入学・進学した学生数は256名で、その一人一人がそれぞれ異なった能力と個性の持ち主だと思います。皆さんの好奇心と向学心が大きな力となって、大学全体を活性化してくれるものと信じています。是非、校歌の「好きなことを♪ 好きなだけ～♪ 学べることは幸せ者だよ♪」の歌詞のように突き進んでもらいたいと思います。

ずっと昔の話ですが、私が大学院に進学したのは、学部卒よりも大手企業に就職できる可能性が高くなるという安直な考えと、「修士」という響きが何となく格好良いなあと、という漠然とした理由からでした。修士2年のある日、カナダの大学教授が来学され、講義を聞く機会がありました。言葉の障壁は高かったのですが、何とか内容が理解できたので思い切って質問したところ、すんなりと(一往復だけの)質疑応答が成立し、非常に感激した記憶があります。思えば、それが現在の私につながる最初の分岐点だったように思います。きっと皆さんも、これから幾つかの分岐点を通して、明るい未来に近づいて行くことになると思います。

さて、本学では海洋、海事、水産分野において、グローバルに活躍できる人材を育成するために、第三期の中期目

標・中期計画の下、様々な改革に取り組んでいます。教育に関わる改革としては、学士課程から大学院課程までつながる効率的・体系的なカリキュラムの実現、博士前期課程授業の英語化、討論型授業の充実に取り組んでいます。

また、海外大学との教育連携などを通して、ダブル・ディグリー(一定の教育プログラムの履修に対して、複数の大学からそれぞれ授与される学位)制度を拡充し、教育の国際展開力を向上させる取り組みを行っています。特に、文部科学省「大学の世界展開力強化事業」として昨年度採択された5年間の事業『日中韓版エラスムス』を基礎とした海洋における国際協働教育プログラム(通称: OQEAUNOUS【<http://www.g2.kaiyodai.ac.jp/oqeaunous/>】)においては、本学、上海海洋大学、韓国海洋大学校の3校における単位互換制度を構築し、ダブル・ディグリー取得者の増加を推進しようとしています。この取り組みは、欧州高等教育圏(European Higher Education Area: EHEA)の確立に向けた一連の改革プロセス(ボローニャ・プロセス)に準拠したもので、学内的には教育の実質化、成績評価の厳密化等の地道な改革による教育の質保証制度確立が重要となります。

これらの努力が実を結べば、欧米やASEANの大学との交流が強化され、本学学生に海外で学ぶ機会を広く提供できるようになります。順調に進めば、この「拓海」が配布されるころには上海海洋大学開催の「サマースクール」の参加者募集が行われていることと思います。

我こそはと思われる方は、是非参加を検討してみてください。



2017年 出会い

入学特集

在学生から

新入生のみなさんへ

新入生の皆さんへ

海洋科学部 海洋生物資源学科4年

木村朝陽

新入生の皆さん、こんにちは。新年度が始まって月日が経ちましたが、皆さんはいかがお過ごしでしょうか。これから始まる大学生活に向けて、私からアドバイスをさせて頂きたいと思います。

大学は、高校までとは違って、非常に自由度が高いです。履修の内容も自分で決め、自分の学びたい授業を受けることが出来ます。また、空いた時間も多いため、その時間に何をするか人もそれぞれです。その中で、大学生活をより充実したものにするためには、自分が何をしたいのか、目標を定めることが重要になります。自分が何を学びたいのか、どうなりたいたいのかがはっきりしている人と、とりあえず卒業できれば…と考えて

いる人では得られるものが大きく違います。

しかし、自分のやりたいことがまだ見つからないという方も多いと思います。そんな方は、まずいろいろなことに興味を持って、チャレンジしてみてください。多くの経験を積んで



いれば、きっと自分が何をしたいのか、どうなりたいたいのかということが見えてくるはずです。失敗を恐れずに、まずは動いてみるのが大事だと思います。

大学での4年間を、長く思えますがそう長くはありません。その4年間をどのようなものにするかは、皆さん次第です。皆さんの行動次第で、楽しくもなるしつまらなくもなるのです。ぜひ様々なことに挑戦して、貴重な4年間を素敵な思い出でいっぱいにしてほしいと思っています。

新入生のみなさんへ

海洋科学部 食品生産科学科4年

坂内千佳子

新入生のみなさん、ご入学おめでとうございます。そろそろ大学生活にも慣れてきたところでしょうか？

大学時代は自らの生き方を選択していく時期に当たると思います。授業の予習・復習も重要ですが、その他の自主的な活動にもぜひ取り組んでほしいのです。そこで、私の体験談を少し紹介したいと思います。

本大学には海外派遣キャリア演習という授業が存在することをご存知ですか？要件を満たせば誰もが参加できるもので、海外探検隊として約1カ月間外国へ行き、チームで様々なプロジェクトに取り組むカリキュラムです。私は1年生のころにシンガポールへ行き、現地の文化や言語に触れ、さらに企業を訪問し、調査や開発、プレゼンテーションを行いました。現地には自分の知らない文化やルールがあり、様々な人と関わることで、これまで当たり前になっていた日本の文化や価値観が、



シンガポールチームの仲間（筆者は左から2番目）

外では全く違うものであるということを経験しました。主体性や課題処理能力を磨くことももちろん大切です。こうした体験をたくさんしてほしいと思います。

大学はこれまでとは異なり、様々な人が集まる所です。今そこにいる人と積極的に交流し、協力して一つのことに取り組み、大きな達成感を味わうことのできるチャンスなのです。

このプログラムを通して得たものは、現在も私の中に生きており、かけがえのないものとなっています。みなさんにも4年間、色々なことに興味を持ち、挑戦し、視野を広げてほしいと思います。

新入生の皆さんへ

海洋科学部 海洋政策文化学科3年

田辺 傑作



深夜、留学先の台湾大学海洋研究所にて

みなさん、海洋政策文化学科で入学おめでとうございます。もう海洋大にはなれましたか？大学での生活はそれまでのものとは全く違うということに少しずつ気づいてきていることかと思えます。

今回は私たちが所属している海

洋政策文化学科という場所について少し私なりの気付きをお伝えしたいと思います。恐らく、もう既に何人かの方は色々な人から「政策って何をするとところなの？」というような質問をされたのではないですか？そしてその答えに窮してしまったのではないのでしょうか。なぜなら、私もそうでした。しかし、それは当たり前のことです。みなさんは自分の生きている社会をどれだけ理解していますか？理解できているようでできていない、そんなところではないでしょうか。私たちの学科はまさにこの社会を、海を中心に「主体的」に考える場です。この「主体的」というのがポイントで、社会は案外よく理解していなくても生きていけるものです。しかし、そこを理解しようと踏み込むと様々な学問領域が現れます。それが今まさに皆さんが学び始めたことです。

海と人と社会の望ましい関係を考えるためには、何をすべきか。このことをあと数年かけて考えてみてください。そして皆さんなりのやり方を見つけ、ぜひ実践してみてください。きっとその頃には、皆さんの中で自分なりの社会の切り口が見つかるはずであり、それこそがこの学科で学ぶ最大の意義だと思っています。頑張ってください。

新たな船出

海洋工学部 海事システム工学科4年

片岡 将之輔

こんにちは、海事システム工学科 4年の片岡 将之輔です。新入生の皆さん、ご入学おめでとうございます。入学してから早くも2カ月が経ち、大学生活にも慣れてきたでしょうか。私自身を振り返ってみると、大学の定期試験への不安と乗船実習への期待で胸が一杯でした。皆さんにはこれから、他の大学では味わうことのできない海洋大学ならではの講義や実習など、楽しい出来事がたくさん待っています。高校生活がアツという間に感じた人も多いと思いますが、大学生活もアツという間に感じると思います。

さて、私からは新入生の皆さんにより良い大学生活を送ってもらうために向上心という言葉を贈りたいと思います。海洋大学には講義以外にも、遠泳実習、乗船実習、高度海洋技術者認定コースや海外の海事系大学との交換留学生制度など、皆さんの能力をstep upさせるための制度が充実しています。通常の講義だけでなく、実習などにも向上心を持って取り組んで欲しいと思います。講義で学んだことを実習などで実際に体

験することは、知識を技術に変えられるチャンスでもあります。社会では知識に加えて、技術や体験が大きな力になります。そのため、新入生の皆さんには講義だけでなく、実習などを通して幅広く学んで欲しいと強く思います。

私たち上級生や卒業生は、皆さんが東京海洋大学に入学してくれたことを嬉しく思います。新入生の皆さんと、ともに同じ志を抱き、同じ理想を求めることができる日が来ることを心から楽しみにしています。さあ、今こそ新たな仲間と共に、この東京海洋大学から始めましょう！



銀河丸にて（中央が筆者）

新入生の皆様へ

海洋工学部 海洋電子機械工学科4年

樋口美奈子

新入生の皆様、ご入学おめでとうございます。大学生活はいかがですか。私は4年目になる大学生活の中で、この大学では他ではできない貴重な経験ができると感じています。乗船実習に遠泳、授業の実習や実験…。新入生の皆さんにとってはどれも未知数だと思いますが、おそらく一番楽しみ、または不安に思っているのは1年生の夏にある乗船実習だと思いますので、紹介したいと思います。

1年生の乗船実習では、エンジン・デッキ関係なく班が編成され、機関系・航海系両方の実習を行います。これは一年生の時だけなので、ぜひエンジンだから、デッキだからと言わずに取り組んでみてください。私は見るだけができなかったのですが、夜航海ではきれ



いな星空が見えるそうです。船の中では整列、食事の時間、掃除の時間、当直など、時間厳守です。はじめは慣れないかもしれませんが、規則正しい生活は気持ちの良いものです。また、船の中では集団生活を行うのですが、決して良い環境での生活ではありません。冷蔵庫は共用で、シャワーの数や洗濯機数は限られており、トイレはすぐに詰まります。同じ船に乗っている人たちをお互い思いやり、譲り合いの精神をもって生活していくのが大事だと私は思います。寝食を共にするうちに友達の新しい一面を見ることができるかもしれません。

先輩に聞けば、実習に役立つことを色々と教えてくれると思います。是非夏の実習を、これからの大学生活を楽しんでください。

新入生の皆さんへ

海洋工学部 流通情報工学科4年

高木智広

新入生の皆さん、ご入学おめでとうございます。

入学して早一か月が過ぎ、大学生活にも慣れて学業だけでなくサークルやアルバイト等の課外活動にも精を出していることでしょうか。また、講義が多く驚き、思ったより自由な時間が少ないと感じている方もおられるのではないかと思います。しかし、大学は高校よりも時間的制約は少なく、皆さんが履修した講義、所属するサークル等は全て自分自身で選択したものです。高校までと大学で大きく違うことは選択肢の多様性、そしてその選択肢を自らで創れるということです。自分から動きさえすれば、どんな場所でも行け、様々な人と出会い、多くの学びを得ることができます。自分だけの判断基準を持ち、どんなこともでき、なりた

自分になれる。ですが、残念なことに自由な時間が多くなるのは今だけです。折角の自分の為に自由に使える時間を無駄にするのは勿体ないことだと4年生となった我が身が痛感しています。

私は現在、就職活動をしており、自分がどうなりたいたのか、本当は何をしたいのかを頭を抱えて悩みました。そして自分自身を振り返ってみると、今までの行動全てに共通する一つの軸を見つけ、今も自分の軸を明確に持ち生活しています。皆さんは、ただ漫然と目標もなく過ごすのではなく、自由な時間がある今のうちに少しでも心惹かれるものに積極的に飛び込み、挑戦し続けてください。今はやりたいことや目標が自分自身でも漠然としか掴めないと思います。しかし、皆さんが何か挑戦し得た経験は自分だけのものであり、将来必ず自分を見つめ直す際に活かされます。

それでは、皆さんの大学生活が実りあるものになることを願い、締めさせていただきます。



新入生の皆さんへ

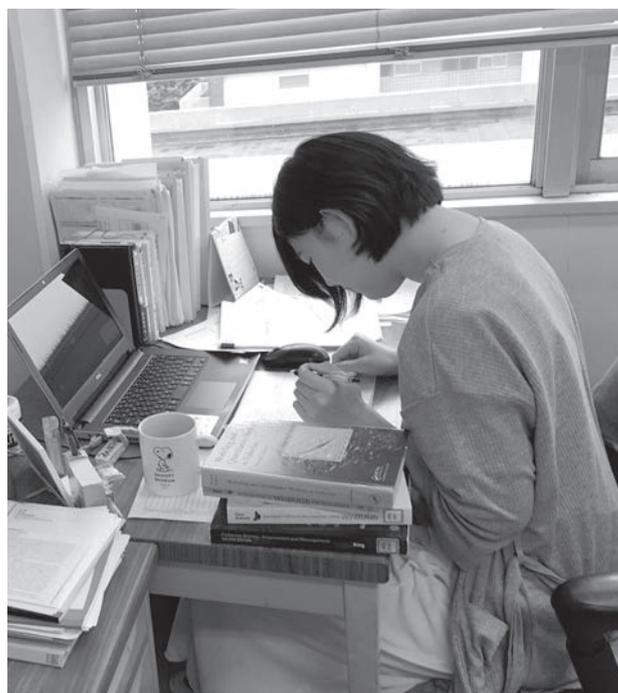
大学院海洋科学技術研究科 海洋管理政策学専攻1年
河野 恵実

初めに、新入生の皆さん、ご入学おめでとうございます。新しい生活には慣れたでしょうか。入学前に思い描いていたような海洋大生活を送れているでしょうか。私が新入生の皆さんに、一つだけアドバイスをするとすれば、「幅広い知識を身につけてほしい」ということです。皆さんにとっては、始まったばかりの大学生活。これからどういう勉強をしよう、どういう道に進もう、いろいろ考えておられる方も多いのではないかと思います。まずは、興味のあるなしに関わらず、いろんな分野の勉強を好き嫌いせずやってみてください。こんな勉強しても将来役に立つのかな、多くの人

が抱いたことのある疑問だと思います。しかし、私はしばしば大学時代のみならず、高校時代に学んだことについても、もっと真面目に勉強していればよかったな、と思うことがあります。

なぜなら、私は現在三陸沖のイカナゴの資源動態に関する統計的研究を行っています。4年前の私は統計に興味があるというわけではありませんでした。しかし、学部時代に統計の授業や実習を取るにつれて、興味がわいてきました。その結果、卒業論文、修士論文ともに資源解析学研究室にお世話になることになりました。

人生の中でおそらく一番自由に時間を使うことができる4年間です。言い換えれば、時間にとらわれず、自分の好きなように勉強が出来る4年間です。是非、興味のアンテナを広げて有意義な大学生活を送ってください。



新入生に向けて

品川キャンパス自治委員会委員長
海洋科学部 海洋生物資源学科3年
水谷 波南香

新入生の皆さん、こんにちは。改めまして、品川キャンパス自治委員会委員長の水谷です。オリエンテーションで一度お会いしただけの方もいらっしゃると思いますが、自治委員会室に遊びに来てくださった方もいてとても嬉しいです。いつでも気軽に声をかけて

ください。

さて、入学してから2ヶ月が経ち、夏休みまであと半分といったところですが、大学生活には慣れましたでしょうか。チャイムが鳴らない、常に土足、席が決まっていないことが多い、ホームルームがない、担任の先生がいない、空きコマがあってどうすごしていかわからないなど、日常のちょっとしたことがいちいち今までと違ってやりづらい部分もあったと思います。それでも、落ち着く場所は見つけれられたでしょうか。頑張ろうと思えることは、あったでしょうか。

大学生活は、長いようで短いものです。時間の使い方を迷っている間に、気づいたら夏休みが終わり、前期が終わり、後輩ができたと思ったら先輩がいなくなっているなんてことにもなりかねません。1年生のうちに、一度でいいのでキャンパス内をぐるっと回ってみてください。図書館の中庭、マリンサイエンスミュージアムのレファレンスルーム、グラウンド前のベンチ、角池横の東屋、雲鷹丸、弓道場、4号館、武道場、体育館、鯨ギャラリー、藤棚、係船場、テニスコート、グローバルコモン、新学館、集会室、中部講堂の銅像。思い浮かべられなかった場所は、いくつあったでしょうか。なにかの時に、引き出せる知識や経験はあって損はないもの。たまには、いつもと違う場所を探検するつもりで、行動範囲を広げてみてはいかがでしょうか。悔いの残らない大学生活、なんていうと難しいようですが、すこしでも有意義にすごせますように。

海洋大生となった皆さんへ

海洋工学部学生会事務局長
海洋工学部 海洋電子機械工学科 制御システム工学コース4年
西山 潤

新入生の皆さん、ご入学おめでとうございます。皆さんが入学されてしばらく経ち、大学にも慣れてきたように感じます。その為、学業だけでなく部活動や委員会など課外活動に取り組む方も多くなってきました。皆さんが部活動や委員会に励んでいる姿を見てうれしく思っています。

さて、海洋大では部活動に力を入れている学生が大勢います。海洋大ということで海に関わるものが多くあり、両キャンパスにおいてマリンスポーツや海に関連した文化部の活動が多く行われています。もちろん海に関係がない部活動も数多く行われています。

私も茶道部の部員として日々活動をしています。部活をしていると他大学の学生さんやOB・OGさんな

ど普通に学校生活を送ってはい関わることの出来ない人と多く関わりを持つことができます。そういった人と交流をする中で、今までの自分にはなかった考え方や価値観を吸収できる機会を多く得ることができません。そこには自分が知らないことや体験したことがないことが必ずあるはずですよ。

最後になりますが、短くもあり長くもある大学生活を悔いの無いように、振り返った時に最高だったと思えるようにいろいろなことに挑戦してください。その経験が皆さんの未来を、一段と輝かせてくれるはずですよ。

新入生のみなさんへ向けて

海鷹祭実行委員会委員長
海洋科学部 海洋政策文化学科3年
木藤 拓也

こんにちは、海鷹祭実行委員会委員長の木藤です。新入生の皆さんは、大学生活には慣れたでしょうか。海洋大学は、一般的な総合大学とはかなり環境も授業内容も異なっているので、まだまだこの学校の特殊な部分に戸惑っている方が多いかもしれません。もしかしたら、自分はそこまで海が好きになけりでもなかった、と感じ、大学生活があまり楽しくない、と思っている人もいるかもしれません。しかし、この大学は海洋以外の講義や海洋に関係のないサークルなども充実しています。だから、海が好きな人はもちろん、そうでない人も気落ちせず、ぜひ自分の興味のあることをやって、学生生活を楽しんでください。

さて、大学生活を充実させるためにサークルや委員会に入る、という話もよく耳にされるかと思います。そこで、品川キャンパスで行われる学園祭、「海鷹祭」とその運営に携わっている海鷹祭実行委員会、について少し紹介させていただこうと思います。海鷹祭では、マグロの解体や水産関連の模擬店など、他大学とは一風変わった催しがたくさんあり、毎年多くの人々が来場してくれています。そして海鷹祭実行委員会は、この海鷹祭を円滑に運営し、盛り上げるために日々活動しています。一緒に海鷹祭を盛り上げてくれる人、海鷹祭の運営に携わってみたいという人、歓迎です。興味がある人はぜひ、新学館1階の海鷹祭実行委員会室へ見学に来てみてください。お待ちしております！

新入生のみなさんへ

朋鷹寮委員長
海洋科学部 海洋環境学科3年

村松拓実

新入生のみなさん、ご入学おめでとうございます。入学してから数か月が経ちますが、新しい環境には慣れましたでしょうか？学生サービス課の方に頼まれ、寮長という立場の僕から、みなさんにお話ししたいと思います。

私事ではありますが、僕は一浪して、ここ東京海洋大学に入学しました。現役時代は運動する気がなく、のほほんと過ごす気でいましたが、浪人時代に風邪を何回もひき、センター試験直前にインフルエンザにかかりました。運動していないことによって免疫が落ちていると感じ、運動しなければと思いました。

いざ大学生生活が始まり、サークル・部活を迷っていた頃、カッター部に勧誘され、楽しそうという軽いノリで入部しました（笑）。ご存知の方もいるかと思いますが、海洋大で一、二を争う忙しさの部活です。おかげで、筋肉で体重が10kg近く増えました。

昔を振り返ると、今の生活は思いもしなかったものだなとつくづく感じます。運動する気がなく、ましてや東京海洋大学を受験する気もなかった自分が、浪人したことによって、大きく変わりました。ですが、後悔はしていません。むしろ、今の自分の方がいいなと感じます。

みなさんは同じ大学ですが、一人一人違う時間を過ごし、違った経験をするとと思います。僕みたいに何が起こるか分からないと思います。その中で、夢中になれるものを探したり、今しか出来ないことをやってみてください。長くなりましたが、みなさんが充実した大学生活を過ごせることを願っています。

新入生に向けて

海王寮 寮務委員会委員長
海洋工学部 海洋電子機械工学科4年

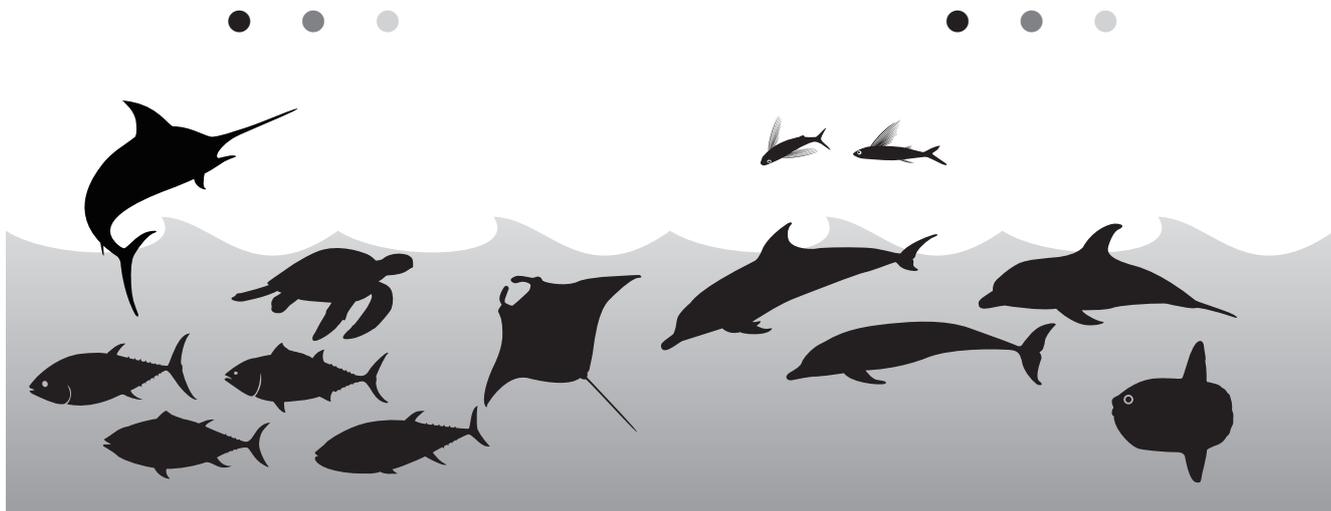
白井拓実

新入生の皆さん、そろそろ新生活には慣れてきた頃でしょうか。皆さんには、数ある大学の中から、東京海洋大学を選んでいただき大変嬉しく思います。

わが「海王寮」という船にも、82名の新たな乗組員を迎えてから一ヶ月が過ぎました。共同生活というのは、ほとんどの者が経験したことのない環境だと思います。すでに寮生活に慣れて友人と夜遅くまで語り合う者もいれば、他人との生活に戸惑ってしまい、馴染めずにいる者もいることでしょう。私の入寮時のことを思い返してみると、当時は今では考えられないほど上下関係が厳しく、怖く見えた先輩が自分のフロアにもたくさんおりました。そんな中でも、辛いことや楽しいことも、寮の仲間たちと乗り越えることによって、次第に同級生だけでなく怖いと思っていた先輩とも打ち解けられた気がします。一人では、どうしようもないようなことでも仲間たちと協力すれば、大抵はクリアできるものです。

皆さんに私から、一つアドバイスを送るとするならば、自分から積極的に交流を持ってください。まだ話したことのない同級生や先輩がいれば、ぜひ話しかけてみてください。東京海洋大学にいる人たちは、皆優しい人ばかりです。そういった人たちと、ともに生活を送る中で、一生の仲間となっていくものです。社会に出ても困った時に助けてくれる仲間が東京海洋大学では、たくさんできます。このようなつながりは、たいへん貴重な経験となります。

皆さん、大学生活、寮生活が充実したものとなるよう大いに励み過ぎてください。



2017年 出会い

入学特集

先輩留学生から 新入生のみなさんへ

先輩留学生から新入生へ

海洋科学技術研究科 応用環境システム学専攻1年

徐 鵬

新入生の皆さん、ご入学おめでとうございます。

私は応用環境システム学専攻、海洋利用システム学に所属している徐鵬と申します。3年前、私は日中韓プログラムの学生として、海洋大に入学しました。日本では、海洋科学技術において先進的な発展が遂げられています。私は自身の専門分野の知識をより向上させることができると考え留学を決めました。同時に、日本の文化について、より理解したいと考えています。また、海洋工学に加え、文化の面でも日本と中国の橋渡しに貢献することが私の望みです。

私の研究テーマは波力発電システムを搭載した振動ブイの構造最適化です。再生エネルギーの分野において、波力は最も注目を集めているテーマの1つです。研究については、修士の時に四つの論文を学術誌に掲載し、国際学会では二度論文を発表しました。この経験により、様々な分野の多くの研究者とコミュニケーションをとることができました。これは、本学に入学したからこそ出来たことだと思っています。今まで頑張ってきて本当に良かったです。私は、海洋関連装置の新機能設計の興味があります。中国はこの装置に関する特許を12個持っており、また1つの特許を申請中です。“海洋波力発電”に関する研究に取り組み、海洋科学研究者を目指して頑張っています。私は世界中の先進の研究者と接するため、博士1年時に“国際海洋科学技術実践専門コース”に参加します。私は研究するにあたり、本学からたくさんの助けを頂きました。これは学術研究のよいところです。

最後になりましたが、新入生の皆さんが悔いの残らない、楽しく充実した大学生活を送られることを心からお祈りしています。一緒に頑張りましょう！



指導教員の井関先生と共に、筆者は右
(デンマークにPRADS'2016国際学術会議)

2017年 出会い

新学部を紹介

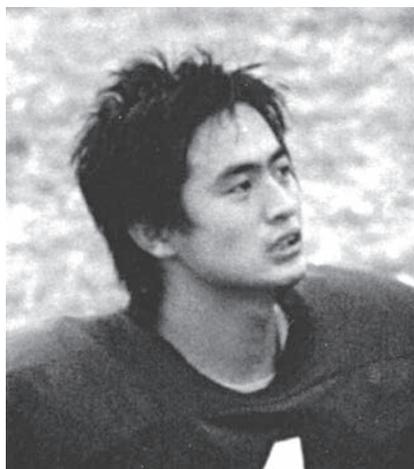
海洋資源環境学部

海洋環境科学科 / 海洋資源エネルギー学科

海洋環境科学科

海洋環境科学科 学科主任

田中 祐志



海洋環境科学科は新設の海洋資源環境学部に属する二学科の一つである。教員組織は海の環境と生物に関する科学を専門とする研究者で構成されている。旧体制の海洋科学部海洋環境学科の教員が多数

を占めるが、学内他学科や学外から選ばれた専門家も補強されている。教員数は38、うち6名は女性である。一学年の学生定員は62であるから、学生2名に教員1名が指導に当たる勘定となる。

教員の教育と研究の分野は多様である。取り扱う環境は海底、海中、海面、大気から宇宙まで、生物のサイズは分子から鯨に及ぶ。この多様な教員が、次世代を担う学生に環境と生物に関連する広範な知識と技術を伝えてゆく。

本学科での4年間で学生諸君が獲得すべき資質と能力は、(1)幅広い知識と技術、(2)自主的判断力、(3)現場

で通用する実践力、(4)国際的で豊かな教養、である。

(1)は、海と、海に接する大気、河川、湖沼、沿岸域と海底に亘り生物を包含する環境の評価、保全、修復等に応用し得る知識である。数学、物理、化学、生物、地学に関する基礎および専門、さらに環境問題の理解と緩和に資する社会科学にも及ぶ。低学年時には広範な知識と技術を貪欲に吸収することが望ましい。専門科目には二つの科目群（海洋学科目群と海洋生物学科目群）を設け体系的に教育する。

(2)は、問題に取り組む際に多様で大量な情報から核心を見抜き自らの頭で論理的に考察し的確に判断し得る力である。この力を養うため対話型の講義を導入する。

(3)は、課題に主体的かつ実践的に取り組む力である。この力は実験、実習、演習や卒業研究等を通じて養われる。水圏科学フィールド教育研究センターや練習船での実習が用意されている。

(4)は、世界の何処でも（グローバルに）活躍する人に求められる。外国語による意思疎通や発表の技術を修得させるとともに、多様な社会と文化に関する幅広い知識と柔軟な理解を涵養する。一部の授業を英語で実施する。

新学科一期生諸君の前途には洋々たる大海原が広がっている。しかしそこは平穏であるとは限らない。知識と技術、さらに豊かな教養を以て自らの力で拓くものである。私達海洋環境科学科教員は、諸君とともに未来を拓いていくため、教育と研究に精励する気持ちを新たにしている。

海洋資源エネルギー学科

海洋資源エネルギー学科 学科主任

宮本佳則

平成29年4月に「海洋資源環境学部海洋資源エネルギー学科」がスタートしました。いつもなら卒業式頃に満開になる大学の桜が今年は、新学科の第一期生を出迎えるように満開となりました。新入学生を迎えて、ようやく新学科が動き始めたと感じています。

入学案内や大学のホームページなどでご存知でしょうが、この『海洋資源エネルギー学科』が、どのような内容の教育・研究をするのかを紹介いたします。本学科では、海洋・海底資源の計測、探査や利用ならびにその環境への影響、海洋再生エネルギーに関連する大気・海水流動の解析技術、バイオマス技術、エネルギー変換、海洋・生物生態調査、海上・海中・海底における諸活動を支える計測機器、移動体、構造物に関する運用・制御などに必要な科学と技術を学び、これらについて研究します。本学科には、海洋再生エネルギーや海底資源利用に関連する科学技術を中心とした学問分野である『海洋開発学』、または海上・海中・海底に

おける諸活動を支える海洋工学を中心とした学問分野である『応用海洋工学』のどちらかを重点的に学べるカリキュラムがあります。

これらを実践するために、本学の強みを活かして海洋、海洋環境についての十分な教育を行うとともに、大学が所有する練習船（4隻）、調査・研究船（1隻）及び実習艇（1隻）を活用して、船上などでの実地教育によって基盤的教育を行います。基礎的な工学教育と海洋開発の実践的教育、さらに海外インターンシップ教育を組み合わせ、環境保全を前提とした海洋開発現場で国際的に対応できる資質を備え、海洋の利用や資源・エネルギーに関連する企業、国・自治体機関での実務分野（基本設計・施工、環境影響評価、コンサルティングなど）、基礎研究分野、行政分野で活躍できる人材を育成します。

そしてこれらの教育・研究を行うために、この学科の創設と共に新たに本学に来られた教員が多くおられます。学科も新入生と同じ第1期のスタートです。生まれたての学科に入学されて不安などがあるかと思いますが、学科の教員一同、授業内容の充実と上記に掲げた教育・研究を進めるべく、高い意志を持って鋭意努力していく次第です。

掲 示 版

飲酒についての注意事項

(1) 未成年者の飲酒は法律で禁止されています。

アルコールには麻酔作用があるので、未成年者が飲み方や適量もわからず無理に飲むと、急性アルコール中毒を起こしやすいといわれています。もし、誰かに勧められても、きちんと断ることが大切です。

(2) 飲酒の強要は絶対にしないこと。

未成年者やお酒に弱い方にお酒を強要することは絶対にしないで下さい。

(3) 飲酒運転は厳禁です。

「道路交通法」では飲酒運転のほか、飲酒者への車両の提供、運転者への酒類の提供、飲酒運転の車への同乗についても禁止されており、厳しい罰則が課せられます。

学科の特色ある実習の紹介



海洋生命科学部 海洋生物資源学科
海洋工学部 海事システム工学科

2年生の夏の始まり 『漁業科学実習』!

海洋生物資源学部門 助教

塩出 大輔

「漁業科学実習」は、海洋生命科学部 海洋生物資源学科の魚群制御学研究室（稲田，秋山）と生産システム学研究室（胡，塩出）が指導を担当して、同学科2年生を主対象として実施している実習です。夏休み期間中の7月中旬に、4泊5日の日程で水圏科学フィールド教育研究センター館山ステーションを利用して行っており、毎年約60名の学生が履修しています。

実習の大きな特色の一つは、館山湾をフィールドとして、実習学生が教職員スタッフと協力しながら総延長225mの旋網（まきあみ）を使って操業することです。この旋網実習では、漁具を積み込み投網・揚網作業を行なう「網船」を本学実習艇「ひよどり」、探魚と（海中

に入れた旋網の内側に網船が入らないように引き出し、揚網しやすくする）裏漕ぎを館山ステーションの36号艇、そして漁獲物の取込みや連絡・調整を担当する和船の計3隻で船団を組んで漁を行います。この操業実習を通して、それぞれの船や道具の役割と、潮の流れや風向きなども考慮しながら安全、適切に操業する手法を学びます。

また、この実習では、旋網操業に加えて、漁網の基本的な構造の理解と操業時に生じた破網の修繕法習得を目的として、網針（あばり）を使い、1本の網糸から袋状の網を編んでいく編網や、海洋生物資源調査における漁具の役割や機能を学ぶために漁獲生物の計測も併せて行い、漁業と資源調査の技術を科学的に学びます。

この実習の歴史は極めて古く、1911（明治44）年に本学の前身である水産講習所が練習船を使った旋網の試験操業を東京湾内で実施したことが起源のようです。その後、実習の内容や日数等に変更や改善が加えられ、現代まで脈々と受け継がれてきました。水産・

海洋系の学部、学科を有する大学は幾つかありますが、この規模の網と舟艇を用いて旋網の実習を行っているのは本学だけであり、海洋大ならではの特色ある授業です。今後も、「漁業科学実習」担当のスタッフ一同は、100年を超える歴史を噛み締め、この実習を一層有意義なものにする努力を続けながら履修生と共に学んでいきます。



ベトナム海事大学との 国際海事訓練セミナー

海事システム工学部門 教授

高木直之

文部科学省による「現代的教育ニーズ取組支援プログラム」(現代GP)の平成17年度テーマ4「仕事で英語が使える日本人の育成」に採択されたプロジェクト「海事英語学習・評価プログラムの開発」終了後、さらなる海事英語教育の充実を図るべく海事システム工学科のカリキュラムに導入されたのが、この国際海事訓練セミナーである。過去3年は、ベトナム海事大学の教員と学生を招聘し、主に船会社に就職の内定した4年生を対象に、本学の練習船汐路丸を使って、館山湾で揚投錨実習を行っている。

出航前にはキャンパスでベトナム海事大学の教員による航路計画などのレクチャーを受け、出港後はベトナムの学生と本学の学生が英語でコミュニケーションをとりながら操船、浦賀水道航路を南下し館山湾に向かう。相手はまったく日本語を解さず、こちらもベトナム語はわからない。必然的に会話は英語になる。お互い英語がそれほど達者ではないので、英語母語話者よりは敷居が低く、本学の学生もものおじせす発言できる。錨泊中は、揚投錨実習の計画を立てたり、商

船での経験も豊富なベトナム海事大学の教員によるレクチャーを聞いたり、充実した時が過ぎる。現代の商船はたとえ日本の船会社が運航する船でも、船員は外国人であることが多く、将来船舶職員として働く学生にとっては、海事英語ばかりでなく、異文化交流の観点からも、千載一遇の体験であると言えよう。

「習うより慣れよ」が語学学習の鉄則だが、実際の船を英語で操りながら、船舶の運航に必要なスキルの習得を目指すこのセミナーは、実学を重んじる本学の伝統と、練習船の船長をはじめとするスタッフの絶大な協力の上に成り立つ、まさに東京海洋大学ならではの特色ある授業であると自負している。



実習感想記



動物生態学実習を体験して

海洋科学部 海洋生物資源学科3年

柴 崎 翔 大

皆さんこんにちは。海洋生物資源学科は多くの実習があり、それぞれ異なる分野の技術を学ぶことができます。それぞれの実習で主導している研究室が違い、その研究室の雰囲気を知るのにもよい機会になるので、できる限り参加するのがよいでしょう。

さて、今回紹介させていただく実習は動物生態学実習です。動物生態学実習は増殖生態学研究室が行っている実習で、研究テーマによって班に分かれて実習を行います。館山のタイドプールでの生物相の研究やハゼを使った標識再捕など生物の生態に関するテーマが主になり、フィールドワークの多い実習になります。

僕が実習に参加したときに選んだテーマは「小型甲殻類の繁殖生態と外部形態の特徴把握」で、館山ステーションの磯に生息するイワガニを用いて部位の計測やフクロムシという寄生生物の有無を調べ、雌雄の違いを調査するというものでした。研究のサンプルを自分たちで採取し、部位計測、データの解析をすることになるので生態学の地道な研究の様子がわかるよい実



フクロムシの仕分けを行う K.H. 氏

習でした。研究テーマによって採集場所などは変わりますが、ぬれてもよいような格好や、データの解析に使うため参加する人は一人一台Rをインストールしたパソコンをもって行くと不便はないでしょう。

実習では普段扱えない器具や道具を実際に触れ、使うことができるという点で座学ではできない体験をすることができます。そういった点でも実習には積極的に参加するのがよいでしょう。



食品生産学実習

海洋科学部 食品生産科学科4年

吉 良 透

食品生産科学科では3年次に約1週間吉田ステーションにて食品生産学実習が行われます。この実習では、かつお節、マグロとサバの缶詰、レトルトカレー、魚肉ソーセージの製造を原料の加工からパッケージを行うまですべてを経験することができます。

原料の加工では魚を捌くことから始めるので、マグロやサバ、カツオなど普段では捌く機会があまりない大きな魚を捌く貴重な経験にもなります。またパッケージングでは密封作業をおこなったり、容器に印字を



食品生産学実習で作った鰹節

行ったりと工場で行われることと同じような作業をすべて行います。工場では機械で行われているような工程も手作業で行ったりもしたので大変な工程も数多くありますが、話を聞くだけではわからないようなことを実習で行うことで食品製造の難しさを知ることができました。

学生はいずれかの食品または機械の担当についており、その担当の人の指示によって作業が行われます。担当の生徒は事前の打ち合わせや予習を行うことでその食品における知識を蓄えることができます。多くの人の前で指示をするのは難しい事ですが、この指示によって担当でない生徒も理解を深めていきます。

食品生産科学科で行われる他の実習よりも多くの工程があり、また忙しいものとなっています。しかしながら約1週間の実習を、多くのことをすでに授業で学んだ3年次に、身をもって体験することによって今まで以上の知識を得ることができる実習であると感じました。この食品生産学実習は食品生産科学科ならではの实習であると思います。

実習体験記

海洋科学部 海洋政策文化学科3年

泉 咲 季

海洋政策文化学科の2年次に行われる水産調査とマリンスポーツ実習について紹介をします。

まず、水産調査は、水産業の現場で働いている方々を訪問し水産業の実態を調査する実習です。昨年は、桜えびで有名な由比港漁協で3泊4日の実習が行われました。事前学習ではいくつかのグループに分かれて、桜えび漁のプール制度や桜えびのブランド認定、由比



渡嘉敷島にて、筆者は後列中央

地区の地域活性化などについて調べました。実習中は実際にセリ場を見学したり漁師の方や漁協の職員の方にインタビューをしたりしました。そして、現地でとれた鮮魚を使った美味しい料理をたくさん頂きました。現場を直に見て、実際に働いている方々のお話を直接聞くことで、水産業への理解が深まり、今抱えている課題が何なのか、それを解決するにはどうしたらいいのか、ということを考えるようになりました。

次に、マリンスポーツ実習についてです。昨年は、沖縄県の渡嘉敷島で行われました。この実習は毎年9月の下旬に行われるので毎回台風にあたっているそうです。昨年も実習中に台風が通過し、3泊4日渡嘉敷島で実習を行うはずが、本島からフェリーが出航せず1泊しか島での実習ができませんでした。渡嘉敷島では昼はシーカヤックとスキndaイビングを、夜はバーベキューをして、寝るときは一人用のテントを自分たちで組み立てて使いました。渡嘉敷島の海は本島よりずっと透き通っていて、夜は周りに明かりがないのできれいな星空を見ることができます。島には2日しか滞在できませんでしたが本当に楽しく貴重な体験ができました。台風のこともあり、人間はやはり自然に左右されなければならないが、それ以上に自然から得るものや自然と触れ合うことでの充足感は大きいと改めて思いました。

乗船実習を通じて

海洋工学部 海事システム工学科3年

田 中 ち ひ ろ

初めての乗船実習で学んだこと、得たものはたくさんある。



まず、航海士の仕事について実際に触れて体感することができる。私は、航海士を目指してこの大学に入学したものの、航海士の仕事を目にしたことがなく、よくわかっていなかった。しかし、乗船者の一員として実際に船を動かしたり、航海士とともに生活したりするにつれ、航海士の仕事を知ることはもちろん、航海士という仕事の捉え方が変わり、尊敬と憧れが強くなった。また、空いている時間には、友人たちと釣った魚を捌き、刺身や煮付を作ったり、野生のイルカや、プラネタリアムとは比べ物にならないほどの綺麗な夜空を見たりすることができる。さらに、寄港する港は、観光地ではない古い港町が多い。そのため、地域の人の温かい歓迎を受けながら、新鮮な海鮮料理や温泉など、のんびりとした雰囲気を楽しむ。旅行では味わえない時間だ。

もちろん、いいことばかりではない。限られた空間で他人と一緒に生活しなければならない中では不満に思うことも、実習で教官に怒鳴られる日や船酔いでご飯が食べられない日が続くこともあった。今となっては、それも踏まえての乗船実習であり、同じ釜の飯を食べ、一緒に怒られ、一緒に成長してきた友人たちとの親密なやり取りを通じ、現在お互いの進路に向けて頑張ることができているのだと感じる。

徐々に航海についての知識がついてきているという自信はあるが、実習ではまだまだ学ぶことは多く、怒られることも、船酔いすることもある。それでも、乗船実習では、新しいことに触れ、充実した時間を過ごせること、自分が大きく成長できることを確信しており、次の乗船が楽しみで仕方がない。

実習感想記

海洋工学部 海洋電子機械工学科 制御システム工学コース4年
井上 恭兵

私は、一年生と二年生の時にそれぞれ一か月間の乗船実習を受講し、実習を通して沢山のことを学びました。その学んだことについて触れていきたいと思いません。まず船内での生活についてです。乗船実習中は船の中という限られた空間の中を、集団生活で一か月間過ごさなければなりません。そんな中でも周りの仲間たちと助け合いながら生活していくことで、仲間たちとの強固なチームワークを培うことができます。また、船内生活は、時間を守ることを徹底されています。そのおかげで、規則正しい生活を身に付けることもでき

ました。乗船中は当直という形で船舶の機関について触れる機会があります。大学の講義だけでは分らなかったことや理解し辛かったことも実際に活用されているところを見て触ってみるにより自分の知識として定着し、実習後の大学での講義でも役に立つことが多々あります。更に、日本近海を航海するので今まで訪れたことのない土地に行くことができ、その土地での新しい発見があるのがとても楽しいです。

他大学では経験することができない乗船実習です。一か月間という期間はあっという間に過ぎてしまいます。その時間を無駄にすることがないように様々なことを学び、そして楽しい実習を過ごすことができるようにして下さい。



実習感想記

海洋工学部 流通情報工学科3年
飯 泉 紗 南

一か月の乗船実習がない流通にとって、海はあまり身近でなく、陸上からの海を普段見ていたのですが、今回、実際に船に乗り、海を上から船から見て、改めて海の広大さを感じました。2泊3日というデッキ・エンジンに比べると短い期間でしたが、乗船実習を通して様々なことを学ぶことができました。1年生のオリエンテーションのひとつとして、東京湾をクルージングしたとき以来だったため、約2年ぶりの夕路丸で懐かしく思いました。前日の雨の影響で揺れが大きく、慣れない多くの学生がダウンし、私もその一人でしたが、船の揺れは心地よくすぐ眠れ、慣れるのはあっという間でした。

当直では船の操縦や見張り、気温や風向など記録をとって受け継いだり、緯度経度から航路を書いたりな

ど、責任を持ってすべき行動を体験できました。乗組員一人一人が役割を果たし、協力することが必要不可欠であり、全てが成り立って船を動かすことができるのだとわかりました。

実習中に埠頭やコンテナ船、ガントリークレーンが動くところを見て、テンションが上がり、写真を撮っていた私たちは、やはり流通なのだと思いました。汐路丸からやよいに乗って帰るとき、船員のみなさんが手を振ってくれたので、寂しさを感じるとともに、様々なことを教えてくれたので感謝でいっぱい、また船に乗りたい・楽しいという気持ちがあったような気がしました。



汐路丸から見たコンテナターミナル

一カ月航海と私

海洋科学技術研究科 海洋環境保全学専攻2年

引地伸太郎

特に印象に残っている実習の一つである乗船漁業実習Ⅱ（以下、一航）について寄稿したいと思います。私は現在修士二年で、一航を経験したのは3年前のことになるので、実習が今現在何に活かされているのかについても述べさせていただきます。

学部三年の私は日本各地の港を無料で回れるお得な旅行程度の感覚で履修しました。しかし辛いと思う時間もあり、やはり実習なのだとは様々な場面で痛感した事を覚えています。1つは船舶という密閉空間での集団生活です。一ヶ月間同じ人たちと毎日同じ部屋で暮らし、食事をとり、作業をします。入浴や洗濯も好きな時間にはできません。つまり、“他人とうまく暮らす”にはコミュニケーション能力が不可欠でした。

この経験は私の研究分野である南極海の調査に活かされました。南極海は低温であることや、流氷、荒波といった過酷な環境で調査をします。調査の成功にはチーム内でのコミュニケーションが非常に重要でした。一航の学びを生かし、私も南極調査の成功に貢献できたと思います。

そして就職活動にもこの学びは活かされています。特に面接の場面における相手を理解する能力、自分を理解してもらう能力は一航の経験に通じるものがあると感じました。つまり、適切な意思疎通は企業と自分との相互理解に必要不可欠であり、就職活動もこれに尽きるのではと私は考えます。

たくさん偉そうなことを書きましたが一航は知識だけでなく生活に生きる知恵も得ることができる実習だという事を伝えたいです。海洋大ありがとうございます!!



南極観測の風景

資格取得に向けて



教員免許取得に向けて

海洋科学部 食品生産科学科4年

洞 靖子

私が教員免許を取得しようと思った理由は、せっかく免許をとれる環境にいるなら取って自分の将来に幅を持たせようと思ったからです。教員免許を取得するためには、学科の授業の課題や実験をこなしつつ教職科目も履修しなければならないため、一般の学生よりも課題が多くなります。さらに、アルバイトやサークル活動と両立させるためには念入りなスケジュール管理が重要です。まずは教職科目と学科の必須科目の日時が重複してしまうことがあるため、履修授業の選択を慎重に考える必要があります。水産教員養成課程の学生は少なく、頼れる友達もいないため、卒業するために必要な要件を自分でしっかり把握して、入念に履修プランを考えてください。

教職科目はグループワーク形式の授業が多く、他学科や学年の異なる学生と接することができます。同じ免許取得を目指す仲間達とも仲良くなり、新しい友達の輪を広げることができました。また、教職科目を通して、学科の専門的な授業では学ぶことができない人文学、社会科学の知識を身に付けることができました。これらの知識は現在の就職活動でもグループワークや面接の際に大いに役に立っており、教職科目の授業を受けて良かったと思っています。学科の授業もこなしながら教員免許を取得することは大変ですが、それに対する見返りが必ずあると思います。皆さんも途中で諦めることなく頑張ってください。



一番左が筆者

資格取得に向けて

海洋科学部 海洋環境学科4年

笠井 崇弘

私は教員免許(水産・理科)と海技士(航海)の資格の取得に向けて勉強を進めています。

最初は「教育に携わる仕事をしたいな」「船乗りってカッコいいな」「海とか水産に関わる仕事をしたいな」なんて漠然と考える程度でした。しかし、学年が上がる毎にこれらの資格取得は漠然とした目標から確固たる目標となったのです。日本の大学において一つの大学の中で教員免許(水産)と海技士(航海)の資格を取得することができるのは現在海洋大のみであり、教員免許と海技士の二つの資格を持った人材が水産・海洋高校から必要とされていると聞きました。そんな中で自分の将来を案じる内に「取得しない選択肢はない!」そんな風に思うようになりました。

複数の資格を取得するのは難しいことに思えるかもしれませんが、意外と資格を取得するために必要な科目は重複していることが多いです。当然、資格を取らない方が楽に卒業できます。私自身、全く苦労がなかった訳ではありません。船酔いはするし、教職の授業もたくさんある…。しかし、払う学費が同じであれば興味がある授業はできるだけ履修し、取りたい資格は苦労してでも取得する。そんな生活を送ってみてもいいのではないかと思います。そして、さらに学びたいと思えば大学院への進学も見えてくるかもしれません。

人にはそれぞれの道があると思います。もし、道中でやってみようか迷うことがあればとりあえずやってみるといいのではないのでしょうか。保証はありませんが得られたものが将来大きな武器になるかもしれない、と私は思っています。



アカウミガメ混獲個体放流のボランティア活動より



大学院で学べること



海洋資源環境学専攻(博士前期課程)

海洋環境科学部門 教授 with 分野長

荒川 久幸

海洋資源環境学専攻は、本年度から海洋環境保全学専攻からの名称変更として発足しています。しかしながら実情は、名称変更にとどまらないほど大きく変化しました。海洋環境保全学専攻は、海洋生物学、水圏環境化学、環境システム科学、環境システム工学、国際環境文化学の5専攻分野で構成されていました。一方、海洋資源環境学専攻は、前者の3専攻分野と環境テクノロジー学の4専攻分野から成り立ちます。本専攻の教育・研究の目的は、「海洋環境を保全しつつ、資源を持続的に利用するため、海洋の成り立ちと保全、海洋生物と環境との関わり、海洋・海底資源およびエネルギー開発と利用に係る諸課題について、理学および工学的な視点からその先端的な学理と応用技術に関する教育・研究を行う」となっており、大気から海底までの海洋や地球の環境と資源に関して、非常に広い分野の内容を研究範囲として含んでいます。教員数は50名(連携講座含む)を超え、とても大きな組織です。4専攻分野はそれぞれに特徴がありますので、各専攻分野長(海洋生物学:鈴木秀和先生、水圏環境化学:石田真巳先生、環境テクノロジー学:谷和夫先生)に研究内容の説明をしていただきます。

海洋生物学専攻分野: 海洋に生育・生息する微小生物から魚類・無脊椎動物・大型動物や植物までを対象とした分類、分布、生活史、形態、生理生態学特性など、あらゆることを視野に入れた教育・研究を行っています。また、個々の生物だけでなく、被食・捕食、共生などの生物間の相互関係、個体群や生態系の動態と環境との関係についての教育・研究にも取り組んでいます。さらに、水圏環境化学、環境システム科学などの専攻分野と連携して気候変動や人為的環境破壊が生態系に及ぼす影響を究明し、生態系の保全や生物多様性の維持のための方策を提示することも目指しています。

水圏環境化学専攻分野: 海や海洋生物に存在する物質について、地球化学・生態化学・応用生化学などの研究をしています。目指すのは次のようなことです。海底を含

む海洋という大きなシステムの仕組みや働きの解明、人間が海に持ち込んだ物質の追跡や生物への影響評価、物質を介する生物と環境との相互作用の解明、微生物や酵素などの生物資源や生物機能の有効利用、海洋環境保全や海洋資源利用に役立つ技術の開発。グローバルな視点で海と地球環境のかかわりを考えたり、ミクロな視点で海の生命を調べたり、化学的アプローチから海で起こるあらゆる現象に迫り、海洋環境を守っていくことができます。化学的アプローチによる海の研究は先端的な分析・観測技術の発達によって、新しい展開が始まっています。地球環境の変動における海の役割を解明することはますます重要になっており、海洋環境の保全や海洋資源の有効利用は、人類の未来の鍵を握っています。

環境システム科学専攻分野: 物理学および数学を基礎として、地球規模からミクロな規模までの様々な時空間スケールで発生する海洋の現象を、観測・実験・解析の手法を駆使して解明することを目的としています。大きなスケールの動きを調査する場合には調査船やシミュレーションを駆使し、ミクロな変化の調査には各種のセンサーを利用して、その現象の解明に取り組んでいます。調査船で海洋環境を調査する場合、決して一人ではよいデータを得ることができません。多くの人と協力することではじめて成果が得られます。協働することの大切さを学ぶことができます。また最新の各種のセンサーを利用することによって、いままで未知とされていた領域を解明することができます。これらの結果からシミュレーションやモデル化することによって、海洋の真の動きや役割を明らかにしていきます。

環境テクノロジー学専攻分野: 海洋の環境を保全しつつ、その資源・エネルギーを持続的に有効利用するための先端的な科学技術について教育・研究を行います。特に、海洋環境の保全と資源利用のバランスを図り、海洋生産活動の安全性と生産性を向上するための工学技術に焦点を当てます。具体的なテーマは、沿岸域の保全と安全な利用、音響計測による海洋生物の資源量・生態および周辺環境の調査、環境保全型の海洋機械システムの創生、海上労働や船の安全性に関わる諸問題の解決、海底鉱物資源やメタンハイドレートの効率的な探査・利用・開発、海洋エネルギーを利用した発電施設などの環境性・安全性

経済性の向上など多岐にわたります。練習船や水圏科学フィールド教育研究センターなどの施設を活かして、海洋資源・エネルギーに関する学際的な取り組みが特徴です。

教育・研究内容の概要がご理解いただけたと思います。本専攻へ進学を希望する人たちのために、さらに二つの特筆事項を挙げておきます。特徴の一つ目は、上に挙げた研究を行うために多くの場合、世界中のあらゆる海域の現場に出かけることになる点でしょう。ある研究では、大学が所有する練習船や他の研究機関の調査船を利用し、また別の研究では大学所属の実験場や他のさまざまなフィールドで長期間にわたって観察や実験を行うこと

になるでしょう。どのようなフィールドに行くことになるかは、研究室や教員が行っている研究テーマと密接に関連がありますので、この点も詳しく調べてみてください。現場での知識を豊富に学ぶことができるはずで、二つ目は国際的な環境にあることです。英語の講義はもちろん、外国から教員も配置されています。また海外の大学とのつながりや国際学会での発表など多くの機会が用意されています。

海洋の環境や資源・エネルギーという専門的な知識は人類にとって不可欠な領域であり、今後の活躍の場は広がっていくと言えます。海洋資源環境学専攻で学んで、研究に取り組み、今後の進路を拓いてください。

海洋管理政策学専攻(博士前期課程)

海洋政策文化学部門 教授

川辺みどり

新学年度が始まり、所属する大学院博士前期課程の海洋管理政策学専攻でもガイダンスが開かれた。こうした場に出席するたびに、自分が大学院に入学して、右も左もわからずにいた頃を思い出す。大学院への進学率は今より低く、そのせいか、大学院の内部でも研究志向がより強く、したがって、授業で学ぶということは今ほど重要視されていなかった時代である。専攻した分野には日本語で書かれた専門書がほとんどなく、英語の文献を研究室のゼミか仲間内の自主ゼミか一人で読むことが勉強だった。当時と比べれば、現在の大学院はずいぶん学習環境が調っている。だが、「学び」の本質は今も昔も変わらず、「対話」にあると思う。ここでは、若い頃の自分に助言するつもりで、「対話による学び」を整理してみたい。

学ぶとは「わかる」こと

なんのために大学院で学ぶのか。一人ひとりにこう問うてみれば、きっと、専門的な知識や高度な技能を身に付けるため、学位を得るため、そして社会で活躍するためなどなど、進学の動機を答えてくれるだろう。しかし、それらは学びの過程で、あるいは結果として修得できるものである。そして、なんのために学ぶのかを突き詰めて考えれば、いずれの動機であれ、「学びたい」という意欲そのものに突き当たるだろう。

では、「学ぶ」とはどういうことだろうか。

「まなぶ」の語源は、「まねぶ」、すなわち真似をすることにあるといわれる。本を読み、知識を得て、解決すべき問題に適用してみる。あるいは、ある状況において他の人の振る舞いをみて、同じように振舞ってみる。こういう行為が「学ぶ」ことの原点であるといわれる。すると、学ぶ方法には、二つの方向性があるように思う。ひとつは、得た知識を自分自身のなかで深めていくよう

な学びであり、もうひとつは、他の人たちとのつながりを通して広げていくような学びである。

深める学び—世界観の構築

前者の、自分自身のなかで深めていく学びの第一は、文献を読むことによる。書かれていることについてよくよく考え、咀嚼し、自分の血肉とすることである。この学びは、時空間を超えた、著者との対話ともいえよう。

自分の中で深める「学び」について解説しているのが、認知心理学者の佐伯胖の著書『「学び」の構造』の一節ではないかと思う。すなわち、「学ぶ」ということは「わかる」ということである。私たちは本を読んだり、人の話を聞いたりして、新しい知識を得る。だが、おぼえるだけでは、学んだことにならない。なぜなら、「おぼえる」ということは、「わすれる」ことと対であり、知らなかった状態に戻ることができる可逆的な過程であるから。一方、「わかる」ことは、不可逆的である。いったんわかってしまえば、わからなかった頃に戻ることにはできない。

最近、知人と話をしていて、この佐伯氏の本のくだりを思い出した。その博学才穎の知人は、とにかくたくさん本を読んでいる。感心するのは、何かの問題について話をもちかけると、読んだ本の記述のなかから関連する事柄を引き出して、その問題に適用し、なるほどどうなりたくなるような答えを導き出してみせるところである。なぜこのようなことができるのかと尋ねたところ、自分は、何かをおぼえるためではなく、そこに書かれていることを理解するために本を読んでいるという。

ここで思うに、読んで学ぶという行為は、理想的には、書籍や文献にある知識を、自分のなかにある世界観—三次元的な網状のものを思い描いているのだが—のなかの適切な位置に取り込むことであり、思考によって網の空白部分を埋め、あるいは網自体を広げていく作業ではないだろうか。この作業を通じて、佐伯氏のいうように、知識は、単なる「エピソード」ではなく、あらゆるものに「つじつま」をあわせ、あらゆる経験の「意味」を教え、あらゆるできごとの「関連」をつけてくれるものと

なる。つまり、知識を得るということは、ものごとの「つじつま」や「意味」や「つながり」で構成される、自分自身の世界観を緻密で膨大なものへと育てていくプロセスなのではないだろうか。

人びととの対話による学び

このような、「理解する」ための文献講読の習慣を、大学院にいる間に身に付けることでできれば、素晴らしいと思う。しかし、現実には、専門書を開けば難しい用語が並び、それらを読み解くのに精一杯だったりして、書かれていることを理解するような読み方は容易ではない（と自分の経験から思う）。そこで、ふたつめの対話による学び、すなわち、他の人たちとのつながりのなかで広げる学びを勧めたい。

まず、身近なところで、研究室や同じような研究の関心をもつ仲間を見つけ、その分野の文献を読み合わせる自主ゼミを持ってはどうだろうか。もちろん準備段階では一人で深める学びをおこなうのが前提だ。仲間内では、ついついルーズになって、準備せずに臨んだり、おしゃべりに興じてしまったりすることもあるかもしれない。そこは始めにルールをつくって乗り越えよう。三人寄れば文殊の知恵とはよく言ったもので、きちんと準備をした学生諸君が議論すれば必ず得るところはある。

そして、もうひとつ、生きた人との対話による学びの

場、すなわち現場に出てみることを勧めたい。実学の研究教育が主流の本学なら、海洋・沿岸での観測作業、漁村での聞き取り調査、さらには企業の方々との共同研究など、実業の現場はほぼどの分野にもある。そして、実業の現場には、そこに住む、あるいはその分野で仕事をする方々が持つ「経験の知」が必ずある。

たとえば、漁業者には、必ず海況の変化や生き物についての「経験の知」というものがある。大学院の研究では、海洋観測や生物の採集をしてそのデータを解析し海と生物の状況についての一般法則をみちびきだそうと、「科学の知」の精緻化に努める。一方、漁業者の経験にもとづく海や魚の知識は、体験を通して得た、特定の時空間に特化した知識である。「科学の知」とちがって普遍的でも客観的でも論理的でもないかもしれない。だが、海という現場での漁労のなかで、身体感覚をもって得た知識には、やはり尊重すべきものが含まれている。こうした経験知を知ることまた、自身の世界観を構築していく助けとなる。

「深める学び」と「広げる学び」の二つは、それぞれ独立しているわけではなく、相互に刺激し合いながら、自分の世界観を厚く緻密なものにしていくのである。ぜひ、この二つを意識的にすすめていただきたいと思う。

¹ 佐伯胖(1970)『「学び」の構造』、東洋館出版、東京。

応用生命科学専攻(博士後期課程)

食品生産科学部門 教授

大 迫 一 史

今回、博士後期課程の応用生命科学専攻において学べることを中心に執筆してほしいとのことで原稿依頼を頂きましたが、「拓海」を読んでいる学生の殆どが、学部生であると思われるので、学部から大学院博士後期課程までで学べること、また、学ぶべきことについて説明をしていきます。

まず、博士後期課程の応用生命科学専攻ですが、応用生命科学専攻は応用生物学と食品利用機能学の2専攻分野と、大学院講座のゲノム科学、先端魚類防疫学、応用微生物学、ヘルスフード科学(寄附講座)の4講座および独立行政法人水産総合研究センターとの連携大学院講座の魚類生理機能学、応用資源動態学、水産資源生態学、深海生物学、水産生物機能学の5講座により構成されます。研究分野はそれぞれ異なりますが、これらにおいては「博士」号を取得することを目的としています。

博士には研究者として自立する能力を有することが求められます。そのため、自分で問題を発見して、それを解決することができる人間になる必要があります。すなわち、問題を発見出来るだけの基礎的な素養を主に学部

生の時期から講義において身につけ、卒論研究において問題解決の手法を修得しておく必要があります。また、問題の発見および解決にとって重要である、他人とのコミュニケーションがとれる人間、さらに欲を言えば、これに加えて多角的にものごとを考えることのできる人間となる必要があります。博士というと、外界と遮断された研究室に籠ってひたすら試験管を振っているイメージがありますが、それでは自立した研究者になることはできません。

ここから、学部学生から博士後期課程の学生まで、それぞれの段階で何が学べるか、また、何を学ぶべきかを綴っていきたいと思います。まず、念頭に置いてほしいのは、高校生と違い、大学生また大学院生は自分から積極的に何を求めるかが重要です。

1. 学部の学生は、毎日のように講義があります。講義に参加して基礎的な知識を得るのは最低限のことですが、水産業界や社会が大学で行われる研究に何を望み、どのような方向へ研究を進めてもらいたいと考えているかを考えながら過ごしてください。そして4年生になって卒業論文に取り組む前に、それらの要望を満たしながらも、同時に学問としての進歩に貢献し得るにはどのような研究分野(所謂研究室)が自分にとって向いているかを踏まえて研究分野を選択してください。卒論研究の指導教員となった先生は学生にテーマを課題として与

え、そのテーマについてどのようにアプローチしていけばよいかを教えてください。さらに大学院生（博士前期および後期学生）になったら、直接研究のテーマと成り得る問題を自分で発掘し、それに対して取り組めるように自分を訓練してください。これらの過程のなかで学生が体得していくものは、研究を進めていくのみならず、将来たとえ研究業務に携わらなくとも、社会で生活するために役に立つものと思います。

2. 現場で生かされるビジョンを常に頭に思い浮かべながら研究をしてください（学部学生、大学院生を問わず）。例えば、既存に無い新しい蒲鉾を開発する研究であれば、これをつくる段階で、将来、現場である民間企業において、どのような過程を経て、どのような機械で蒲鉾が製造されていくかを想像してください。次に、それを用いて物性のテストをするときには、例えば家庭において、どのような食べられ方をするかを想像しながら実験を行なってください。このことにより、学部の学生においては、与えられたテーマに意義を見出し、研究意欲の向上に繋がります。また、院生においては、自らがテーマを発掘するにおいて、根本とすべき軸（すなわち、研究の結果がどのように現場で生かされるか）が明確となり、次なる研究課題は自ずと湧き上がってきます。

3. 学生は現場に出て勉強をしてください。これは第二に述べたことと繋がりますが、ビジョンを頭に思い浮かべながら研究するためには、ビジョンを構築するための基礎知識が必要です。例えば、一般の民間の加工場にはどのような機械があるのか、一般的な食品はどのような流通形態で市場に供給されるのか、等を知らなければビジョンは浮かび上がって来ません。また、このことが、現場が直面している課題（研究課題）を発掘することにもなります。

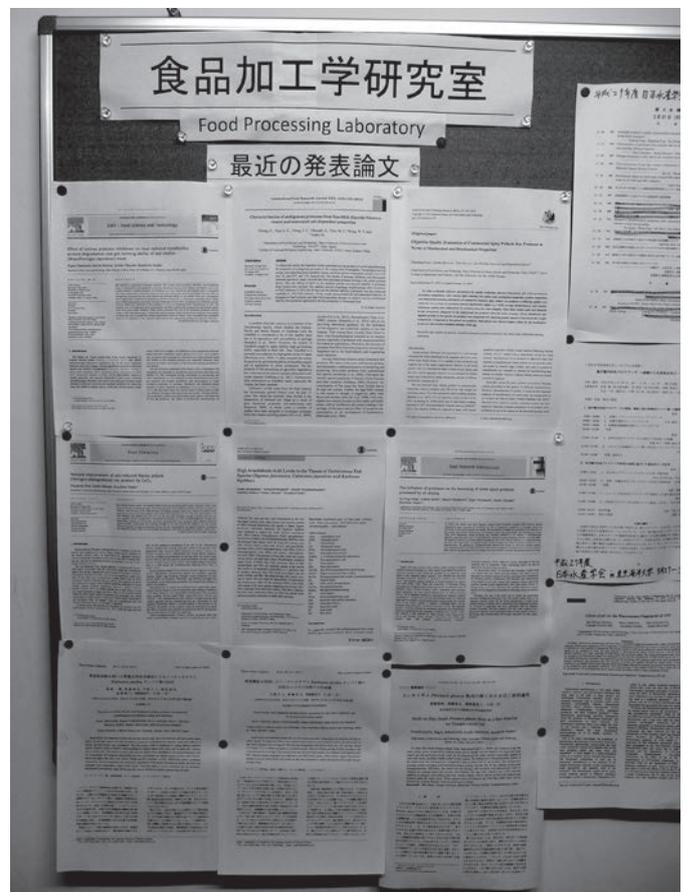
4. インターナショナルな環境のなかで勉強してください。私の経験ですが、国外の研究者や留学生との交流、または国際学会のなかで、国際社会における日本の役割、国際協力のあり方等について深く考えさせられるとともに、グローバルな視点に立ったものの見方やコミュニケーションツールとしての英語力の重要性を認識させられています。ものの見方や考え方、および英語力を身につけるという意味からも、インターナショナルな環境のなかで勉強してください。また、できれば国際学会で、英語で発表を行ってください。これは、とくに大学院博士後期課程の学生についてはほぼ必修ですが、博士前期課程の学生、また、もし可能であれば学部生もチャレンジしてください。東京海洋大には、海外でこのような経験ができるプログラムを持っています。

5. 学生はインターンシップ等を通じてどんどん社会に出る準備をしてください。当たり前のことですが、例え、博士号を取得して大学の先生になろうと思っても、

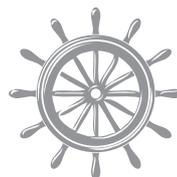
社会との関係は切り離せません。そして、出来れば、組織の中に入り込んで、辛い思いや、やり切れない思いもしてください。そして、研究室に帰って来て、不満に思ったことや、やり切れなかったことを仲間に話してください。

6. 沢山の論文を書いてください。これは、とくに博士後期課程の学生についてですが、最低でも2つの論文が無いと博士にはなれません。論文を書くことは研究の集大成です。逆に言えば、論文を書かなくては研究をする意味はありません。先にも少し述べましたが、研究とは、問題点を発掘し、それをどう解決するかというところにあります。このことによって、世界の科学技術が進歩していくのですが、これらの情報を内に仕舞っていても、誰もそのことがわかりません。世界の科学技術への貢献は全くないのです。また、大学院の博士後期課程に進学しようとする学生においては、アカデミックポジション（大学の教員）を得ることが目的の学生も多いと思いますが、論文の数が採用において最も大切となります。

以上、とめどなく書きましたが、大学院生も含め、大学においては、「何が学べるか」ではなく、「何を学ぶか」が大切です。今の環境を生かし、最大限のことを学んでください。



学生が執筆した論文



卒業論文・修士論文への 取り組み方

卒業論文への取り組み方

海洋科学技術研究科 海洋管理政策学専攻1年

岡松千真

私は『アイスランドにおける漁業管理制度の構造と変遷』というテーマで卒業論文に取り組みました。

アイスランドは、面積、人口ともに小国であるものの、豊かな漁場と資源に恵まれており、水産業は国の主要産業のひとつでもあります。また、アイスランドはITQ制度という漁業管理制度を世界の水産国に先駆けて導入し、改正を重ねて近年のアイスランドITQ制度を確立してきました。日本と同じ島国で、水産業が重要な産業であるという点に興味を持ち、アイスランドの漁業管理制度を対象に研究を行うことにしました。

具体的には、関連する文献および統計を収集・分析し、アイスランドの漁業管理制度の構造、変遷を明らかにし、ITQ制度がアイスランドにおいて成立し得た条件、

今後の課題について考察しました。膨大な文献や統計を元に論文を書きましたが、資料はほとんどが英語で書かれていたので、正確かつ速い理解という点で少し苦労しましたが、英語能力の向上にもつながったと思います。卒業論文を仕上げることで、漁業管理制度に関する自分なりの理解ができたと思いますが、それと同時に、多くの疑問点も生まれました。そこで修士課程ではこれらの点を踏まえ、さらに深く研究を行おうと考えています。

卒業論文を書いたことで、自分の調査したいことがより明確になり、さらに深く知りたいという意欲が出ました。卒業論文での研究が、今後の研究や就職活動へつながるよう努力したいと思います。



卒業論文への取り組み方

海洋科学技術研究科 海運ロジスティクス専攻1年

森隆人

私は3年生の後期に研究室に配属されてから半年間は自分の興味のあることに取り組み、新しいプログラミング言語を習得しました。そして4年生になると同時に先生と打ち合わせを重ね、早い段階で卒業論文のテーマを決定しました。就活の際のESなどでも卒業論文のテーマ・内容を問われることがあるので、早いうちからテーマ決めを行うことをお勧めします。

当時、私が興味を持っていた動画像処理の技術と習得したプログラミング言語を軸にしながら先生と一緒にテーマを決めました。自分の興味のある分野を研究の対象にしたほうがモチベーションを保つことができると思います。また、大学の卒業論文である以上、その内容がしっかりと社会的に役立つものでなければな



らないということを強く感じました。私自身、ただ単に研究を進めていく日々が続く中、自分の研究の目的・社会的必要性が何なのか答えることができないことがありました。よって、その研究をやる意味は何なのか、どのような社会的背景があるから自分の研究が必要とされているのかを考えながら、進めていくことも重要だと思います。

周りの友人と進捗を話し合っていると、期日に間に合わないためテーマを変更した人などもありました。私も11月頃に、卒業論文の大元は変えずに、最初に決めたテーマから少し手前に設定し直しました。卒業論文制作の1年間は他の事との両立などもあり、意外と短いものです。しっかりと計画立て、試行錯誤して頑張ってください。



筆者が一番右

修士論文への取り組み方

海洋科学技術研究科 応用環境システム学専攻1年

広瀬正尚

修士論文とは本学博士前期課程を修了するために必ず仕上げなくてはならないものです。そのため学部の卒業要件である卒業論文と同じように思えるかもしれませんが、しかし大きな違いがあります。それは自ら研究に向かい、実験および調査を進め、その成果から得られた結果をもとに、「新規性」や「独創性」のある考察が行えているかを求められるという点です。

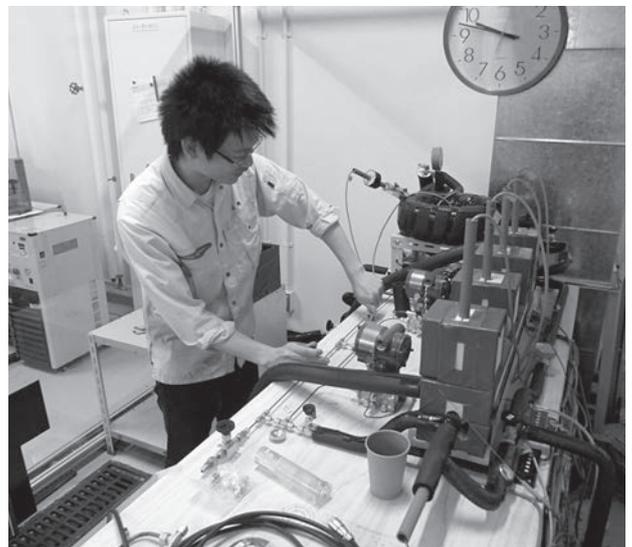
卒業論文であれば、受けなくてはならない授業も数多くあり、研究に集中する時間が少ないため指導教員の先生や修士、博士の先輩に従って研究することが多く、自分で考えて研究することは少ないと思います。しかしながら修士課程は2年間みっちり自分の目的や興味に即した研究に集中できます。その成果を示す

ものが修士論文になるのです。では修士課程で実りある論文を仕上げるためにはどうしたらよいのでしょうか。私は以下のことに気を配りました。

まず、研究計画を自分で立てることです。修士課程では学会発表や共同研究等さまざまな研究目標が存在します。自身の力量に合わせ目標のデータを取得し、十分な解析ができるだけの時間を考慮した計画を立てました。立てた計画をもって指導教員の先生としっかり打ち合わせ、助言いただき円滑に進められるように準備することが肝要です。加えて、限られた時間や研究設備を用いていかに計画を進めることができるのかを考え、遂行する経験は、研究に限らずどのような場面でも必要となってくる力であり、その練習の場であるとも言えます。

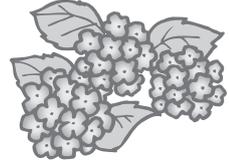
次に自分の行っている研究の意義や目的をはっきりと理解することです。あいまいな理解のまま実験や調査を行っているとう着地点が見えなくなってしまうからです。着地点がない状態で計画を立てると時間のロスが増すことで、せっかくの2年間の学びの機会が無駄にならないよう気を付けました。また、実験、調査を行っていく中で、わからないことや少しでも気になったことは必ず調べ、知識に対しては貪欲に得ようという姿勢を貫くように心掛けました。なぜなら学生という立場でない限り、時間を気にすることなく知識を吸収できる期間はないからです。

修士課程の2年間の集大成たる修士論文の執筆は想像する以上に厳しいことや、時間が足りないことがあるかもしれません。しかしながら2年間で経験する問題に立ち向かう力、自分の意見を伝え、実現し、広く発表する経験はどこに行っても役立つはずで、苦しい経験から成果が得られた時の喜びや充実した達成感が是非とも感じられるような修士論文の執筆を進めてください。



実験中の筆者

卒業生より



業界で活躍している OB・OGの方々

業界で活躍している卒業生より

海洋システム工学専攻
(現：日鉄住金防触株)

橋本凌平

平成26年3月に海洋システム工学専攻を修了し、現在は社会人3年目として日鉄住金防触株式会社という、構造物の維持管理に携わる会社に勤めております。「防食（防食）」という言葉を目にする機会はあまりないかもしれませんが、実はこの防食が施された施設やモノは私たちの身近に溢れているのです。

私たちが普段目にし、よく触れる金属として鉄が挙げられるかと思いますが、水分と酸素がある環境では、こうした鉄製品は徐々に腐食していき、本来の機能を失ってしまいます。そのため、腐食を防ぐ「防食」処理を施すことにより、その機能を長く持たせることが必要となるのです。色鮮やかな塗装も防食の1種であり、防食対象の使用場所や使用方法などによって用いる塗料も変わってきます。簡単に替えが利くものであ

ればしっかりとした防食を施す必要性はないかもしれませんが、これが橋梁やプラント施設などの構造物であった場合、簡単にリニューアルするということも難しくなってしまいます。

私の所属する部署は、腐食の進行によって老朽化した構造物を診断した後、最適な補修・補強方法をお客様へ提案し、実際に工事を行うことで構造物を延命化することを目的としています。

例として、栈橋や岸壁の下部構造の補修・補強工事が挙げられます。下部構造というのは、一般的に人が歩く部分（上部構造）を支えている鋼構造物を指し、鋼管杭や鋼矢板と呼ばれるものが用いられております。もし土台となる下部構造が腐食によって穴が空いてし



岸壁の下部構造（鋼矢板）に防食工事を行った際の様子

まった場合、上部構造は耐えきれなくなって崩落してしまう危険性があります。輸出入の多くを海運に頼っている我が国にとって、船舶が日々の作業を安全に行うためにも、港湾施設の防食は大変重要な役割を担っているのです。

こうした事業の中でも、現在私は開発系のグループに属しており、現行技術の改善や共同研究による基礎的な防食効果の評価試験、学会発表を通じた対外的な技術PRなどを業務としております。また、施工管理として実際の現場に赴く機会もあり、想像していたものとのズレや工事特有の難しさなども感じています。業務内容に関しては大学在籍時との関わりも大きく、所属していた機械材料研究室（元田先生、盛田先生）で腐食・防食というものを知ったことがきっかけとなり、現在の会社に興味を持ちました。

実際に会社に入ってから腐食に関する知識だけではなく、コンクリートなどの土木分野や塗装などの化学分野といった、今まで触れてこなかった分野もカバ

一していかなければならず、大変さを感じることもありますが、同時に多くの知識を吸収することができ、面白さも感じております。

今後、社会資本の老朽化は急速に進行することが予想されており、建設後50年を経過する施設の割合は、数年後には4割を超えと言われております。防食による構造物の維持管理というものは、一般的に広く理解されている業種ではありませんが、1人でも興味を持つ方が増えて頂けたら幸いです。

学生時代に心残りがあるとすると、自分の行きたい道を狭めすぎたという点です。就職活動を控えていらっしゃる方は、世の中にこういった業種・仕事が存在するのかを十分調べてから進路を決めていくことをお勧めします。

最後になりますが、皆さんにとって悔いの残らないような学生生活と、その先の社会人人生が充実したものであることを願っております。

在学生に向けて

平成25年3月 東京海洋大学大学院
海洋環境学専攻 修了
平成25年4月 株式会社パスコ 入社

川 嶋 瞬

今回、拓海で原稿を書いてみないかというお話を頂き、本学の博士前期課程を修了してから丸4年も過ぎていることに、時の流れの早さを感じ驚いております。海洋大を卒業しても海関係の仕事をしていない卒業生もいるという1つの例として、今回原稿を書かせて頂きました。

現在の勤め先に興味を持ったきっかけは、学生時代の研究に衛星画像を用いていたことです。就職して以来、私は衛星画像を用いた解析、地図作成、防災に係る仕事など様々なことを経験してきました。

衛星画像を用いているという点では、学生時代と同じなのですが、現在の業務と学生時代の研究では対象が全く異なるので、衛星画像の使い方も全くと言っていいほど共通点はありません。それでも丸4年間同じ企業の社会人として仕事をしていられたのは、学生生活6年間の中で、一生懸命やったことがあったからだと思っています。

学部3年生までは、正直、勉強よりも空手道部での活動に精を出していました。4年生で研究室に配属されてからようやく勉強、研究をする様になり、苦労も沢山しました。最終的には、博士前期課程に進み、普通に

生きていたら行くことの出来ない極域の海洋観測を経験させて頂きました。

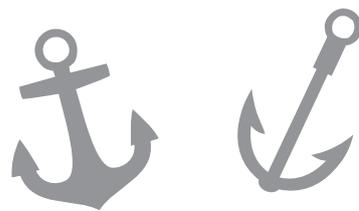
一生懸命物事に取り組むと、頭にくることや、辞めなくなるのが必ずあります。時には、辞めてしまうこともあるかもしれませんが、でも、学生生活のどこかで、諦めずに最後まで一生懸命やり抜いて下さい。1度でも、あの時頑張った、きちんと最後までやりきったという経験があれば、それが異なるフィールドや異なるシーンであっても不思議とその次も同じように頑張れると思います。また、一生懸命やり抜いた時に一緒にいた方々とは卒業して時が経って集まっても自然と話がはずむ友人になれるはずで。コース選択、研究室配属、進学、就職などのきっかけで、一緒に過ごす時間は減ってしまうかもしれませんが、久しぶりに会っても自然と盛り上がる友人は、年を取れば取るほど大事になります。

社会人になって振り返ると、やはり大学時代が一番自由に時間を使え、失敗しても許される時期でした。疲れたら潔く休息することも大事ですが、まずは積極的に色々なことに挑戦してみてください。

海洋大生として過ごしていると段々わからなくなるのですが、海洋大で行われる実習などは、一般的には経験する機会のない貴重な内容ばかりです。将来、海関係の仕事に就きたい人はもちろん、そうでない人もなるべく参加してみてください。最初は怖いかもしれませんが、2、3回やってみると挑戦するのは難しいことではないと分かり、楽しい大学生活を送ることができると思います！

大学祭特集

実行委員長から



海王祭の紹介

第57回 海王祭を終えて

第57回海王祭実行委員会 委員長
海洋工学部 海事システム工学科3年 小関 優大

第58回海王祭実行委員会 委員長
海洋工学部 海事システム工学科2年 渡部 太郎

みなさま、こんにちは。

先の5月27日(土)、28日(日)の第57回海王祭の



調査・研究船「やよい」試乗会



海王祭実行委員会メンバー

実行委員長を務めて参りました小関優大と申します。

みなさまのお力添えをいただきまして、無事第57回海王祭を終えることができました。謹んでお礼申し上げます。

今年度の海王祭は「越」のテーマのもとで私立三菱商船学校から設立142周年目となる東京海洋大学の学園祭である海王祭を、過去を越えたものにし、東京海洋大学と海事産業の活性化に一役貢献しようとして参りました。今年度はご来場いただいた多くの方々から明治丸に乗船され、重要文化財である明治丸、そして東京海洋大学に親しみをもっていただけではないかと拝察しております。

海王祭の当日は両日とも天候に恵まれ、ご来場いただいた皆様、参加団体の皆様にご協力いただき、トラブルもなく、海王祭を無事に終えることができました。重ね重ねお礼申し上げます。

来年度、第58回海王祭実行委員会委員長を務めさせていただきます渡部太郎と申します。

是非、来年度のこの時期に開催される第58回海王祭に足をお運びいただき、次の世代となる私たちが試行錯誤

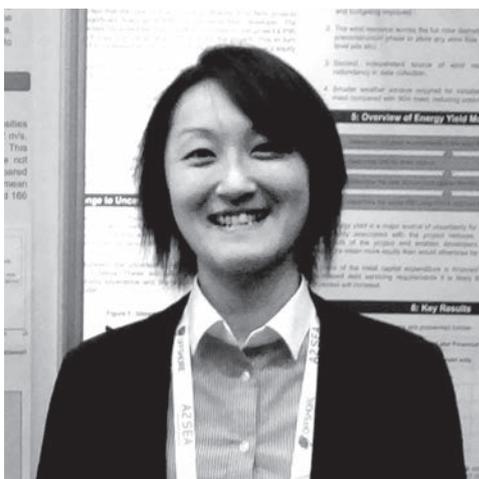
して創り上げる新たな取り組みをご覧下さい。今年度を勝る盛況を見せ、東京海洋大学、海事産業の発展に貢献できる学園祭にすべく、努めて参ります。海王祭実行委員会一同、ご来場を心からお待ちしております。どうぞ来年度も海王祭をよろしく願い致します。

新任教員の紹介



海洋資源エネルギー学部門 助教

竹山 優子



平成29年4月より海洋資源環境学部担当の助教に着任した竹山優子です。

これまでの主な研究内容は、人工衛星データや数値気象モデルを用いた洋上の風の推定やこれに野外観測を組み合わせた風況把握です。特に日本周辺海域で洋

上風力発電を実施する際に必要な風の情報を正確に知ることに着目してきました。今後も海上風に関する研究を継続していきます。簡単にアクセスできない海上で、時間・空間的に連続した風の情報を得ることは簡単ではありません。船による数日程度の観測は可能ですが、長期的な変動を捉えることは困難です。ブイによる観測は海面付近の風を連続して計測できますが、風車のハブ高度（ブレードの高さ）の風速を知ることができません。海上での観測鉄塔を設置すれば上空の風速も連続して観測できますが、水平方向の面的な風の変動を知ることができません。音、光やマイクロ波を用いて離れた場所の風を地上や宇宙から計測するリモートセンシング技術、数値計算も活用できますが、これらの手法には必ず精度検証が必要となります。つまり、これさえあれば洋上の風を完全に把握できるという方法はなく、対象となる現象や目的に合わせて個々の技術を選択し、また、複数の技術を組み合わせることで精度を高めることが重要です。

これから教育・研究を通して学生の皆さんと共に自身も成長していければと考えております。よろしくお願い致します。

掲 示 版

薬物の乱用について

薬物の乱用は、本人の精神と身体に危害を及ぼします。また、友人や家族関係の崩壊にもつながるなど、本人だけでなく、社会全体に計り知れない影響をもたらします。このため、薬物の所持や使用は法律で禁止されており、違反者は厳罰に処せられます。

薬物に対して安易な気持ちや一時の興味で接することのないよう十分注意してください。

ニュース & トピックス

平成28年度学位記・修了証書授与式を行いました

平成29年3月24日（金）メルパルクホールにて、平成28年度学位記・修了証書授与式を行いました。

学部生470名、水産専攻科生34名、博士前期課程214名、博士後期課程18名に学位を授与しました。



竹内俊郎学長による式辞



山本勝 一般社団法人海洋会 会長の祝辞



学位記授与



学位記・修了書授与式

平成29年度 入学式を行いました

平成29年4月7日（金）、港区メルパルクホールにて平成29年度入学式を行いました。

今年は、学部473名、水産専攻科39名、乗船実習科56名、博士前期課程226名、博士後期課程30名の学生が入学しました。

竹内学長の式辞の後、本学卒業生である小野寺五典衆議院議員よりご祝辞をいただき、後輩となる学生達へ多くの励ましや新学部への期待をいただきました。

続いて、独立行政法人大学評価・学位授与機構名誉教授 荻上紘一様より、「生徒」から「学生」になる新入生への心構えや学生たちへの期待についてお話いただきました。

最後に校歌を斉唱しました。

入学式終了後、サプライズゲストとして本学客員准教授のさかなクンが登壇し、新入生を大いに盛り上げました。



竹内俊郎 学長



平成29年度入学式



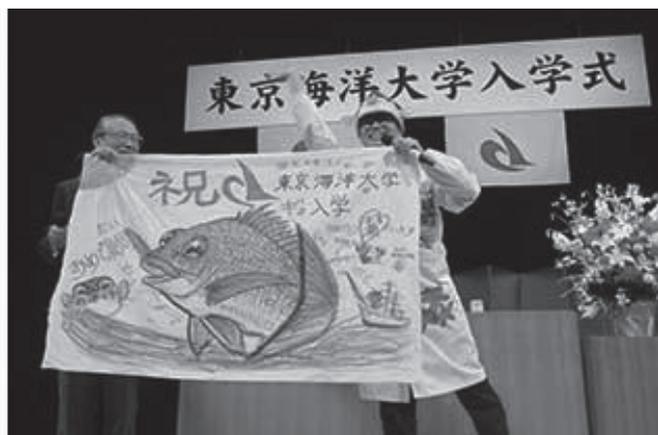
独立行政法人大学評価・学位授与機構荻上紘一名誉教授



小野寺五典 衆議院議員



新入生代表宣誓



客員准教授・名誉博士 さかなクン

平成28年度学生表彰授与式、学業優秀学生奨学金授与式、各賞表彰授与式を行いました

平成29年3月23日（木）、平成28年度学生表彰授与式、学業優秀学生奨学金授与式、各賞表彰授与式を行いました。

学生表彰規則に基づき、学業において特に顕著な業績を挙げた学生8名、課外活動において優秀な成績を取めた学生1名、社会活動において優れた評価を受けた学生1名および1団体へ表彰状および記念品が授与されました。



学生表彰授与式（学部）

学生表彰規則に基づき、研究活動において特に顕著な業績を挙げた学生8名、早期修了の学生1名へ表彰状および記念品が授与されました。



学生表彰授与式（大学院）

平成20年度より創設された奨学金で、博士前期課程2年次在籍者で成績優秀な博士後期課程進学者10名および国家公務員採用総合職試験合格者6名へ目録が授与されました。



平成28年度学業優秀学生奨学金授与式

特に顕著な業績を挙げた学部生21名、大学院学生1名へ各学会から表彰状および副賞が授与されました。



各賞表彰授与式

海洋資源環境学部の開設記念式典、講演、祝賀会を挙行了しました

平成29年4月21日（金）、東京海洋大学中部講堂にて、海洋資源環境学部の開設記念式典、講演、祝賀会を挙行了しました。

式典は、文部科学省高等教育局専門教育課浅野敦行課長、国立研究開発法人海洋研究開発機構平理事長、公益財団法人笹川平和財団海洋政策研究所寺島所長をはじめ、歴代学長ら関係者約200人の参列のもと執り行われました。

竹内学長の式辞では、「海洋開発・環境保全分野でグローバルに活躍する海洋スペシャリストを育成することを念頭に、教育プログラムをしっかりと推進いたします」との決意が述べられました。浅野課長、平理事長、寺島所長からも、新学部への期待の祝辞を賜り、その後、岡安海洋資源環境学部長から、新学部の概要説明が行われました。



竹内学長式辞



岡安海洋資源環境学部長の
新学部概要説明



文部科学省高等教育局
浅野 敦行 専門教育課長



国立研究開発法人 海洋研究
開発機構 平 朝彦 理事長



公益財団法人 笹川平和財団
寺島 紘士 常務理事

式典に続き、アルフレッドウェゲナー研究所、マックスプランク海洋微生物学研究所のアンティエ・ボエティウス教授から、「海洋、その資源、その環境—私たちの未来のための海洋研究」、ハワイ大学マノア校海洋地球科学技術学部長のブライアン・テイラー教授から、「2つの学部の物語：ハワイ大学マノア校海洋地球科学技術学部と東京海洋大学海洋資源環境学部」と題して、記念講演が開催されました。



アルフレッドウェゲナー研究所
マックスプランク海洋微生物学研究所
アンティエ・ボエティウス 教授



ハワイ大学マノア校
海洋地球科学技術学部長
ブライアン・テイラー 教授

記念祝賀会では、竹内学長の挨拶に続き、黄川田仁志衆議院議員、山田美樹衆議院議員、国土交通省海事局羽尾一郎局長、国立研究開発法人海上・港湾・航空技術研究所大和裕幸理事長からのご挨拶を賜りました。日本郵船株式会社宮原耕治相談役による乾杯の御発声を賜り、学部開設に尽力された関係の方々など、式典に引き続き多くの出席者のもと、盛大に新学部の設置を盛大に祝いました。



山田 美樹 衆議院議員



黄川田 仁志 衆議院議員



国土交通省
羽尾 一郎 海事局長



国立研究開発法人 海上・
港湾・航空技術研究所
大和 裕幸 理事長



日本郵船株式会社
宮原 耕治 相談役



祝賀会の様子

就職情報

平成28年度卒業者の就職先

海洋科学部・水産専攻科

業種	企業名
建設業	株式会社シマノシステム
	ゼニス羽田株式会社
	日本メックス株式会社
製造業	伊藤ハム株式会社
	岩井機械工業株式会社
	エム・シーシー食品株式会社
	株式会社紀文食品
	キュービー株式会社
	株式会社グッドフェローズ
	株式会社ゴトー養殖研究所
	ジャパンマリンユナイテッド株式会社
	昭和産業株式会社
	株式会社新来島豊橋造船
	スターゼン株式会社
	株式会社大仙
	株式会社タケショ-
	中国塗料株式会社
	東海デキストリン株式会社
	東海澱粉株式会社
	日清製粉株式会社
	日東ベスト株式会社
	株式会社ノースイ
	不二製油株式会社
	株式会社不二家
	マリンフーズ株式会社
	三井造船株式会社
	森永乳業株式会社
山崎製パン株式会社	
株式会社YAMATO	
大和食品工業株式会社	
情報通信業	株式会社いい生活
	株式会社エキサイト
	株式会社NTTデータ
	NTTデータフォース株式会社
	株式会社キーワードマーケティング研究所
	JFEシステムズ株式会社
	鈴与システムテクノロジー株式会社
	ヴァイタル・インフォメーション株式会社
	株式会社フェイクスター
	株式会社hop
	株式会社ワイイーシーソリューションズ
運輸業、郵便業	アジアパシフィックマリン株式会社
	伊勢湾海運株式会社

業種	企業名
運輸業、郵便業	株式会社宇徳
	NYKContainerLine
	鹿児島船舶株式会社
	川崎近海汽船株式会社
	株式会社商船三井
	新日本海フェリー株式会社
	大東港運株式会社
	株式会社ダイトコーポレーション
	鶴見サンマリン株式会社
	株式会社二葉
卸売業、小売業	株式会社魚力
	株式会社久世
	株式会社京王ストア
	中島水産株式会社
	株式会社マルイチ産商
金融業、保険業	郵船商事株式会社
	株式会社七十七銀行
学術研究、 専門・技術サービス業	第一生命保険株式会社
	三井住友海上火災保険株式会社
	アビームコンサルティング株式会社
	株式会社アルファ水工コンサルタンツ
	沖田不動産鑑定士・税理士事務所
	国立研究開発法人海洋研究開発機構
	一般財団法人材料科学技術振興財団
	国立研究開発法人水産研究・教育機構
	日本海洋事業株式会社
	国立研究開発法人農業・食品産業技術総合研究機構
	独立行政法人農林水産消費安全技術センター
一般財団法人三重県環境保全事業団	
三国屋建設コンサルタント株式会社	
教育、学習支援業	学校法人綾紡学園
	独立行政法人海技教育機構
	国立大学法人長崎大学水産学部
	宮崎県立宮崎海洋高等学校
複合サービス事業	全国漁業協同組合連合会
	全国農業協同組合連合会埼玉県本部
	東京工業大学生活協同組合
サービス業	日本生活協同組合連合会
	株式会社アイ・エス・ピー
	株式会社グランピスタホテル&リゾート(鴨川シーワールド)
	一般財団法人新日本検定協会
	JapanischesRestaurant HASHIMOTO
東北ポートサービス株式会社	

業 種	企 業 名
サービス業	株式会社日本テクシード
	株式会社農協観光
	株式会社マイナビ
公 務	鹿児島県
	葛飾区
	神奈川県
	気象庁
	水産庁

業 種	企 業 名
公 務	千葉県
	東京都
	東京都中央区
	東京都港区
	富山県
	宮城県気仙沼市
横浜市	

海洋工学部・乗船実習科

業 種	企 業 名
漁 業	八木田水産株式会社
鉱業,採石業,砂利採取業	日本海洋掘削株式会社
建 設 業	鹿島建設株式会社
	株式会社クリハラント
	五洋建設株式会社
	三井金属エンジニアリング株式会社
製 造 業	いすゞ自動車株式会社
	今治造船株式会社
	エバラ食品工業株式会社
	株式会社オーバル
	かもめプロペラ株式会社
	キヤノン株式会社
	セントラルエンジニアリング株式会社
	芝浦メカトロニクス株式会社
	ジャパンマリンユナイテッド株式会社
	住友重機械工業株式会社
	セイコーエプソン株式会社
	ダイキン工業株式会社
	ダイハツディーゼル株式会社
	津田駒工業株式会社
	東京エレクトロン株式会社
	株式会社トプコン
	内海造船株式会社
	長野日本無線株式会社
	日本無線株式会社
	日立造船株式会社
	富士通株式会社
	株式会社富士通ゼネラル
	本田技研工業株式会社
	三浦工業株式会社
	三井造船株式会社
	八洲電機株式会社
ユニリーバ・ジャパン株式会社	
情報通信業	医療システムズ株式会社
	株式会社エクサ
	株式会社ケイラインビジネスシステムズ
	テラテクノロジー株式会社
	株式会社東洋信号通信社
	旭タンカー株式会社

業 種	企 業 名
運 輸 業、 郵 便 業	イースタンカーライナー株式会社
	飯野海運株式会社
	出光タンカー株式会社
	株式会社宇徳
	株式会社ANACargo
	NSユナイテッド海運株式会社
	NYK LNG シップマネージメント株式会社
	オーシャントランス株式会社
	大塚倉庫株式会社
	鹿児島船舶株式会社
	株式会社阪急阪神エクスプレス
	川崎汽船株式会社
	川崎近海汽船株式会社
	共栄タンカー株式会社
	共栄マリン株式会社
	旭東海運株式会社
	恵進海運株式会社
	コマツ物流株式会社
	JXオーシャン株式会社
	株式会社商船三井
	商船三井客船株式会社
	鈴与株式会社
	全日本空輸株式会社
	田淵海運株式会社
	DHL サプライチェーン株式会社
	株式会社ティー・エス・ジー
	東洋埠頭株式会社
	株式会社ニチレイロジグループ本社
	日本通運株式会社
	日本郵船株式会社
	日本貨物鉄道株式会社
	八馬汽船株式会社
株式会社日立物流	
株式会社丸運	
三井倉庫ロジスティクス株式会社	
三菱倉庫株式会社	
郵船ロジスティクス株式会社	
卸売業、小売業	GLOBE株式会社
学術研究、専門技術サービス業	伊勢三河湾水先区水先人会

業 種	企 業 名
学術研究、 専門・技術サービス業	エム・アール・アイリサーチアソシエイツ株式会社
	株式会社MOLマリン
	国立研究開発法人海洋研究開発機構
	東京湾水先区水先人会
	株式会社ナスカ
教育、学習支援業	日本海洋事業株式会社
	独立行政法人海技教育機構

業 種	企 業 名
教育、学習支援業	株式会社早稲田学習研究会
サービス業	新江マリタイム株式会社
	レバレッジズキャリア株式会社
公 務	海上保安庁
	川崎市
	静岡県
	東京消防庁

大学院海洋科学技術研究科

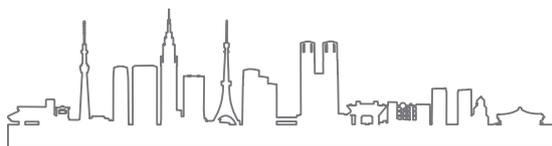
業 種	企 業 名
建 設 業	東芝プラントシステム株式会社
	東洋エンジニアリング株式会社
	日揮株式会社
製 造 業	アルプス薬品工業株式会社
	株式会社石井鐵工所
	いすゞ自動車株式会社
	出光アグリ株式会社
	イトウ製菓株式会社
	伊藤忠飼料株式会社
	いなば食品株式会社
	井上特殊鋼株式会社
	ウィルマージャパン株式会社
	渦潮電機株式会社
	江崎グリコ株式会社
	エバラ食品工業株式会社
	Fホールディングス株式会社
	小川香料株式会社
	オルガノ株式会社
	花王株式会社
	株式会社コスモステクニカルセンター
	株式会社資生堂
	株式会社ニチレイバイオサイエンス
	株式会社宝幸
	株式会社KITZ
	キュービー株式会社
	株式会社極洋
	栗田工業株式会社
	ケンコーマヨネーズ株式会社
	独立行政法人国立印刷局
	サンデンホールディングス株式会社
	サンヨー食品株式会社
	ジャパンマリンユナイテッド株式会社
	シンフォニアテクノロジー株式会社
	住友ゴム工業株式会社
	株式会社全農ハイバック
	ソントン食品工業株式会社
	大和製罐株式会社
	月島食品工業株式会社
	株式会社ディスコ

業 種	企 業 名
製 造 業	東京理化学器械株式会社
	株式会社東ハト
	東洋水産株式会社
	東洋冷蔵株式会社
	東リ株式会社
	巴工業株式会社
	長野計器株式会社
	株式会社中村屋
	ニチモウ株式会社
	日清オイリオグループ株式会社
	日清食品株式会社
	日東富士製粉株式会社
	日本水産株式会社
	株式会社日本海水
	株式会社日本計器製作所
	日本製粉株式会社
	日本ニュートリション株式会社
	日本農産工業株式会社
	日本無線株式会社
	ネスレ日本株式会社
	ハーゲンダッツジャパン株式会社
	ハナマルキ株式会社
	株式会社美十
	フィードワン株式会社
	富士食品工業株式会社
	富士通株式会社
	富士通ゼネラル株式会社
	フジパン株式会社
	株式会社不二家
	プリマハム株式会社
	古河機械金属株式会社
	古河電気工業株式会社
	ポーソー油脂株式会社
	株式会社前川製作所
	マリンフーズ株式会社
	丸大食品株式会社
	マルハニチロ株式会社
	丸和バイオケミカル株式会社
	三井化学株式会社

業 種	企 業 名
製 造 業	三井造船株式会社
	明星食品株式会社
	株式会社武蔵野フーズ
	ヤマサ醤油株式会社
	雪印メグミルク株式会社
	横河ソリューションサービス株式会社
	横河電機株式会社
	横浜冷凍株式会社
和光純薬工業株式会社	
情報通信業	株式会社イトラスト
	インフォコム株式会社
	株式会社インフォセンス
	NECソリューションイノベータ株式会社
	NTTコムウェア株式会社
	NYKBusinessSystems
	株式会社コア
	JFEシステムズ株式会社
	テックスエンジニアリング株式会社
	株式会社テブコシステムズ
	日本電気航空宇宙システム株式会社
	日本電波塔株式会社
	株式会社日立ケーイーシステムズ
	株式会社富士通ビー・エス・シー
	古河インフォメーションテクノロジー株式会社
	株式会社ベーシック
	株式会社菱友システムズ
	レキオソフト株式会社
株式会社ワークスアプリケーションズ	
運輸業、郵便業	株式会社宇徳
	SGホールディングス株式会社
	鹿児島船舶株式会社
	鴻和海運株式会社
	サンインテルネット株式会社
	株式会社SEALS
	商船三井客船株式会社
	日水物流株式会社
	株式会社ホームロジスティクス
	三菱倉庫株式会社
	三井倉庫サプライチェーンソリューション株式会社
	株式会社ユニエツクス
卸売業、小売業	株式会社アイスコ
	川重商事株式会社
	サンデン商事株式会社
	株式会社セブン-イレブン・ジャパン
	大都魚類株式会社
	株式会社ニトリ
	阪和興業株式会社
	吉通貿易株式会社
学術研究、 専門・技術サービス業	地方独立行政法人青森県産業技術センター食品総合研究所
	株式会社アルファ水工コンサルタンツ
	いであ株式会社
	株式会社MOLマリン
	株式会社オオスミ

業 種	企 業 名
学術研究、 専門・技術サービス業	株式会社オリエンタルコンサルタンツ
	一般財団法人沖繩美ら島財団総合研究センター動物研究室
	国立研究開発法人海上・港湾・航空技術研究所海上技術安全研究所
	株式会社建設技術研究所
	国際航業株式会社
	一般財団法人材料科学技術振興財団
	国立研究開発法人水産研究・教育機構
	株式会社生活品質科学研究所
	独立行政法人石油天然ガス・金属鉱物資源機構
	大和探査技術株式会社
	株式会社東京久栄
	日本エヌ・ユー・エス株式会社
	一般財団法人日本海事協会
	一般財団法人日本食品分析センター
	株式会社ニュージェック
	株式会社町田予防衛生研究所
独立行政法人労働者健康安全機構	
株式会社友萌	
ユーロフィンNDSCF&E株式会社	
輸出入・港湾関連情報処理センター	
教育・学習支援業	茨城県教育庁
	株式会社うすい
	広東海洋大学
	株式会社さなる
国立大学法人東京海洋大学	
医療、福祉	日本漁船保険組合
複合サービス事業	全国漁業協同組合連合会
	全国農業協同組合連合会
	千葉県漁業協同組合連合会
サービス業	イカリ消毒株式会社
	株式会社ウエスコ
	株式会社LSIメディアエンス
	株式会社システムシンク
	浙江天草生物化学股份有限公司
	タイ水産局
	株式会社テクノプロテクノプロ・R&D社
	公益社団法人日本水道協会
	株式会社日本保育サービス
	株式会社バスコ
株式会社ピアズ	
株式会社フェイス	
株式会社ワールドインテック	
公 務	愛知県
	大分県
	海上保安庁
	水産庁
	千葉県
	千葉県市原市
	千葉県袖ヶ浦市
	東京都
	東京特別区
	長崎県
農林水産省	

学生相談のお知らせ



学生相談室について

学生相談（カウンセリング）

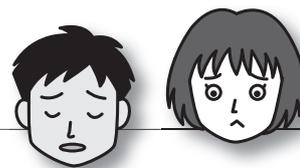
学生生活、進路、対人関係で悩みがある場合は、専門カウンセラーが相談に応じます。

話をしてみることで、あるいは自分の思いを表現し

てみることで、思いのほか気持ちが楽になったり、次への展開へのきっかけが見つかったりもするものです。相談内容についての秘密は厳守されています。

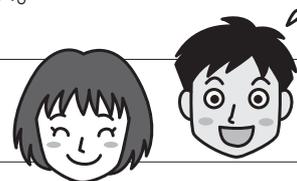
品川キャンパス

場 所	大学会館1階学生相談室
日 時	水・木曜日 12:00～16:00 ※詳細については、保健管理センターホームページをご覧ください。 大学ホームページ — 「在学生の方へ」 — 「保健管理センター」 — 「学生相談」
相談員	染谷先生（臨床心理カウンセラー） 高井先生（臨床心理カウンセラー）
予約方法	直接相談室においでくださるか、メールでご予約ください。 メール s-counseling@o.kaiyodai.ac.jp



越中島キャンパス

場 所	越中島会館1階 学生相談室
日 時	月・水曜日 12:00～16:00 ※詳細については、保健管理センターホームページをご覧ください。 大学ホームページ — 「在学生の方へ」 — 「保健管理センター」 — 「学生相談」
相談員	善積先生（臨床心理カウンセラー） 戸田先生（臨床心理カウンセラー）
予約方法	直接相談室においでくださるか、保健管理センターでご予約ください。 1. 窓口にて 2. 電話 03-5245-7357（保健管理センター事務室） 3. メール e-hoken@o.kaiyodai.ac.jp



平成29年度 学生支援教員

1年生

学部	学科	教員氏名			
海洋生命科学部	海洋生物資源学科	片桐 孝之	岩田 繁英		
	食品生産科学科	後藤 直宏	木村 凡		
	海洋政策文化学科	高橋 周	萩原 優騎		
海洋工学部	海事システム工学科	岩坂 直人	久保 信明	小橋史明(*1)	田丸人意(*2)
	海洋電子機械工学科	岩本 勝美	堀木 幸代	大島 浩太	
	流通情報工学科	黒川 久幸	奥村 保規		
海洋資源環境学部	海洋環境科学科	長井 健容	中村 玄		
	海洋資源エネルギー学科	甘糟 和男	中東 和夫		

(*1) 平成29年度のみ担当

(*2) 平成30年度以降担当

2年生

学部	学科	教員氏名			
海洋科学部	海洋環境学科	酒井 久治	片野 俊也	川合美千代	大縄 将史
	海洋生物資源学科	小林 武志	加藤 豪司		
	食品生産科学科	萩原 知明	大迫 一史		
	海洋政策文化学科	馬場 治	藤本 浩一		
海洋工学部	海事システム工学科	石橋 篤	逸見 真	斎藤 浩一	
	海洋電子機械工学科	刑部 真弘	田中健太郎	田原淳一郎	
	流通情報工学科	今野 均	橋本 英樹		

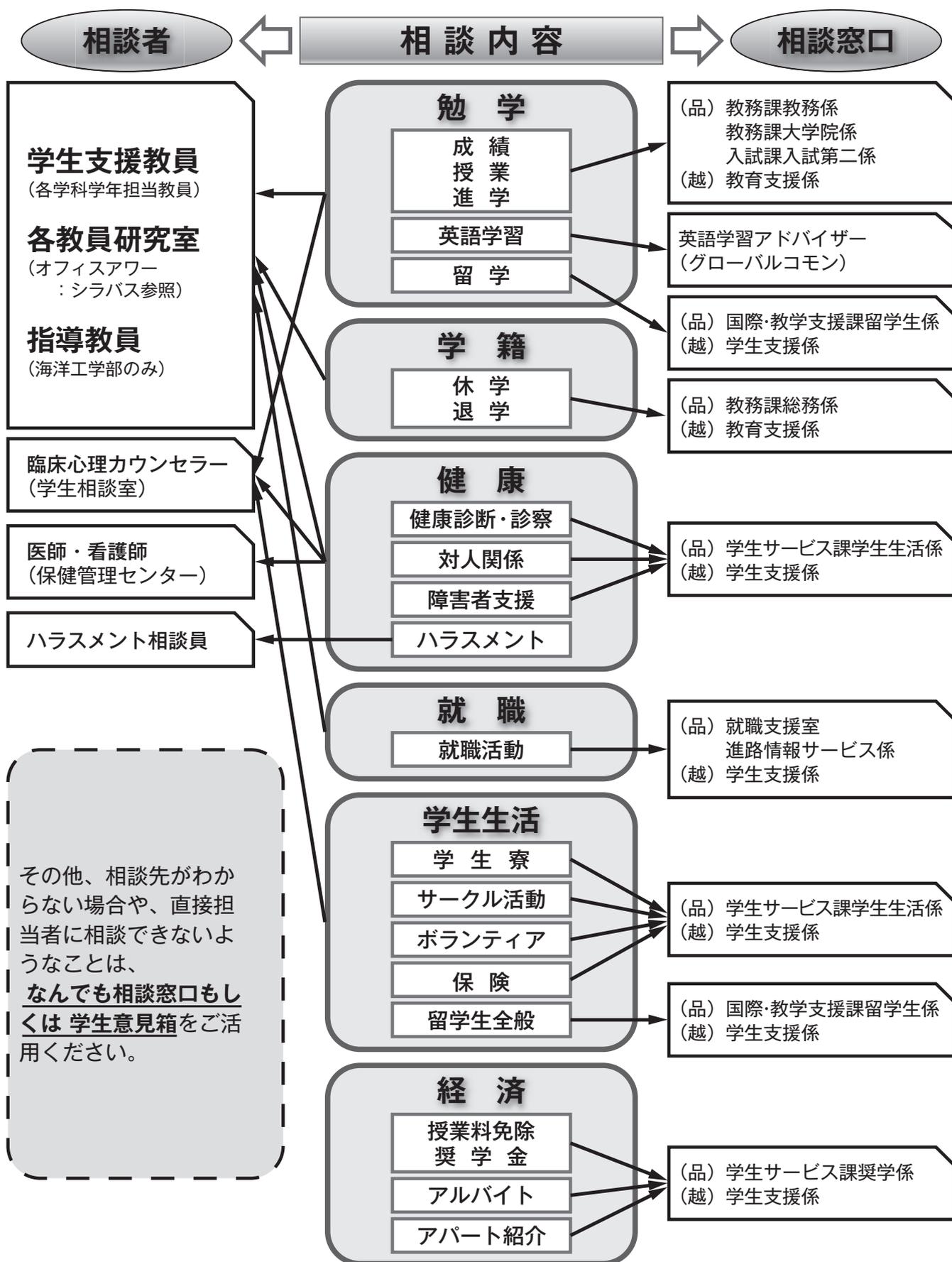
3年生

学部	学科	教員氏名			
海洋科学部	海洋環境学科	河野 博	上野 公彦	根本 雅生	岡井 公彦
	海洋生物資源学科	佐野 元彦	小林 征洋		
	食品生産科学科	福岡 美香	別府 史章		
	海洋政策文化学科	婁 小波	大島 弥生		
海洋工学部	海事システム工学科	井関 俊夫	増田 光弘	松本 洋平	
	海洋電子機械工学科	馬場 涼	地引 達弘	小嶋 満夫	
	流通情報工学科	中川 雄二	関口 良行		

4年生

学部	学科	教員氏名			
海洋科学部	海洋環境学科	土屋光太郎	石田 真巳	北出裕二郎	内田 圭一
	海洋生物資源学科	二見 邦彦	山本 洋嗣		
	食品生産科学科	黒瀬 光一	嶋倉 邦嘉		
	海洋政策文化学科	川邊みどり	工藤 貴史		
海洋工学部	海事システム工学科	岩淵 聡文	藤坂 貴彦	近藤 逸人	
	海洋電子機械工学科	塚本 達郎	大貫 等	村山 利幸	
	流通情報工学科	下野 孝一	渡部 大輔		

本学の学生相談体制について



お知らせ

図書館からのお知らせ

東京海洋大学「古本募金プロジェクト」のご案内 — 眠っている本で母校を応援しませんか? —

このプロジェクトは、利用し終えた書籍、CD・DVDやゲームソフトなどをお送りいただくことで、その買い取り額を寄附金として本学に受け入れ、学生の教育・研究活動に役立てる取り組みです。

在校生・卒業生、その親族の方のほか、どなたでもお申し込みいただけます。読まなくなった本を整理したい方、ぜひ、東京海洋大学「古本募金プロジェクト」をご利用ください。

■申込み方法：箱詰めして電話するだけ。

不要になった書籍等を段ボール箱に入れ、提携会社バリューボックス（電話：0120-826-292）に連絡してください。

宅配業者が受け取りに参ります（5冊以上なら送料はかかりません）。

【注意】以下の本は取り扱えませんので、ご了承ください。

※ISBNのない本、百科事典、コンビニコミック、個人出版の本、マンガ・一般雑誌

詳細は、東京海洋大学古本募金サイトをご覧ください。

<http://www.furuhon-bokin.jp/kaiyodai/>

図書館には、古本募金プロジェクト用の回収ボックスもありますので、冊（点）数が少ない場合は回収ボックスもご利用ください。

直接図書館に書籍等を寄附される場合は、各キャンパスの図書館ご連絡ください。

本学の教育・研究環境充実のため、皆様のご協力をお願い申し上げます。

44

国立科学博物館および 国立美術館の利用について

本学は、「国立科学博物館 大学パートナーシップ」および「国立美術館キャンパスメンバーズ」に加入しております。

本学の学生証を提示することで、下記施設の常設展が無料で利用できるほか、特別展・企画展を割引料金で鑑賞できるなどの特典があるので、ぜひご利用ください。

◆国立科学博物館 大学パートナーシップ利用可能施設

施設名	住 所
国立科学博物館(上野地区)	東京都台東区上野公園7-20
附属自然教育園	東京都港区白金台5-21-5
筑波実験植物園	茨城県つくば市天久保4-1-1

◆国立美術館 キャンパスメンバーズ利用可能施設

施設名	住 所
東京国立近代美術館	東京都千代田区北の丸公園3-1
国立西洋美術館	東京都台東区上野公園7-7
国立新美術館	東京都港区六本木7-22-2

国立劇場の利用について

本学は2014年11月1日（土）から「国立劇場キャンパスメンバーズ」に加入しています。

メンバーズ制度への加入により、本学学生は、国立劇場主催公演の歌舞伎、文楽、日本舞踊及び邦楽並びに国立演芸場の公演の一部を、特別割引料金（キャンパスメンバーズ料金）で鑑賞することができます。また、イヤホンガイドや公演プログラムも割引利用・購入ができます。

本制度についての詳細、対象公演及びキャンパスメンバーズ特典については、国立劇場ホームページを参照願います。
<http://www.ntj.jac.go.jp/kokuritsu.html>

◆歌舞伎公演の料金

等級	一般料金	キャンパスメンバーズ料金
特別席	12,500円	6,300円
1等A席	9,800円	4,900円
1等B席	6,400円	3,200円
2等A席	4,900円	2,500円
2等B席	2,700円	1,400円

※料金は平成29年4月現在のものです。

◆イヤホンガイドや公演プログラムの割引価格

イヤホンガイド：通常料金から150円割引。
公演プログラム：通常料金から100円割引。

緊急時連絡システムへ登録を!

—緊急時連絡システムとは—

本学のすべての学生・教職員と緊急時に連絡をとるためのメール配信システムです。

1. 台風・地震等の自然災害やインフルエンザ流行等による緊急の休講等をメールで連絡します。
2. 災害時の安否確認や健康状態の収集手段としても使用します。
3. その他、掲示板で告知するお知らせの中で緊急性があり重要と判断するお知らせもメールで連絡します。

—登録方法—

- 緊急時における大学からの連絡を確実かつ速やかにご確認いただくため、携帯電話・スマートフォン・PHS等の携帯端末及び自宅PC等の複数のメールアドレスの登録を行ってください。
利用案内メールが届かない場合は、以下の問合せ先へご連絡ください。

登録手順は以下のとおりです

1. 登録用メールアドレス (regist_kaiyou@school-i.net) 宛てに、配信を希望するメールアドレスから空メールを送ります。
1人につき、3つのメールアドレスを登録することができます。(携帯、PCとも登録可能です)
携帯の方はQRコードからアクセスすることも出来ます。
2. 登録用のメールが届きます。
(メールが届かない場合は、携帯電話の迷惑メールフィルタリング機能をご確認下さい)
3. メール内のURLをクリックすると登録画面が表示されます。
4. 登録画面にログインIDとパスワードを入力し登録を完了します。
ログインIDは、学内メールアドレス (****@kaiyodai.ac.jp) に送信される利用案内メールに記載されています。
ログインID: ****
ログインPS: ****



—メール受信時の注意—

- ※メール配信システムではメール受信者が開封したかどうかの確認が取れるシステムになっています。また、アンケート形式で安否確認を行う場合もあります。メールを受信した場合は必ず開封し、内容を確認した後、指示に従い回答を行ってください。
- ※空メール送信後、登録用メールが届かない場合は携帯電話の迷惑メールフィルタリング機能をご確認下さい。
(指定着信する場合はschool-i.netをドメイン指定して下さい)
- ※ログイン画面 (<http://www.school-i.net/kaiyou/parent/login.php>) をブックマークしておく、後日、メールアドレスやパスワードの変更を行う際に便利です。
- ※ログインID、パスワードは各自で管理してください。パスワードは、初回のログイン後、変更してください。
- ※配信先の変更を希望する場合やアドレス自体を変更した場合は、再度メールアドレスを登録してください。
- ※パスワードを紛失した場合は、以下の問合せ先へご連絡ください。
- ※メール配信システムは、大学からの送信専用アドレスです。上記のアンケート形式での回答以外は、大学側では内容の確認ができませんのでご注意ください。

—個人情報取り扱いに関して—

メール配信システムにご登録いただきましたメールアドレス等、個人情報に関しては本学個人情報保護規則に法り厳正な取扱いをいたします。また、上記の目的に限り使用し、他の目的で使用することはありません。

緊急時連絡システムに関する問合せ先:
総務部総務課 so-soumu@o.kaiyodai.ac.jp
03-5463-0354

EMERGENCY CONTACT SYSTEM

Tokyo University of Marine Science and Technology

What is the Emergency Contact System?

The purpose of this system is to contact students, professors and university staff members by email in the following cases:

- when classes are suddenly canceled due to a natural disaster (typhoon, earthquake), a flu epidemic or other reasons
- to gather information about the safety and health of university members after a disaster
- to disseminate urgent and important information displayed on the university's notice boards

Initial contact

A notice regarding the use of the emergency contact system will be forwarded from the system to your university address (@kaiyodai.ac.jp). Follow the instructions to register your personal email address.

Registration procedure

1. Send a blank email to the registration address (regist_kaiyou@school-i.net) from the address you wish to register. Up to 3 addresses can be registered per person, whether a mobile phone or PC address.
Mobile phone users can access the registration site directly using the QR code pictured in this box.
2. A registration form is emailed to your address (check your spam filter settings if the email doesn't arrive)
3. Click the URL displayed in the form to access the registration screen
4. Log in using the ID and password included in the email initially sent to your university address.
ログインID:*****
ログインPS:*****



Notes

- The system is configured to detect whether recipients have accessed their messages. It is also used to gather information about the safety of the registered community through questionnaires. When contacted, please ensure that you open the message and reply according to the instructions.
- If you fail to receive the registration form after sending a blank email, please check your mobile phone's spam filter settings. Add the domain name school-i.net to your list of authorized contacts.
- Add the system login page to your bookmarks to easily access your email and password settings.
- Manage your ID and password carefully, and make sure that you change your password after logging in for the first time.
- To change your delivery settings, register a new email address.
- If you forget your password, contact the administration using the contact details below.
- The system is a send-only address. Please keep in mind that the university cannot receive emails sent to this address.

Privacy policy

Email addresses and other personal information registered on the system are strictly protected according to the university's privacy policy. The system is used exclusively for the purposes stated above.

Contact

General Affairs Department, General Affairs Division
Email: so-soumu@o.kaiyodai.ac.jp Tel: 03-5463-0354

ネットワーク障害防止のための注意事項

重要!

キャンパス内で、ネットワーク停止が頻発しています。
研究室内の配線の点検をお願いします。



ループ状にケーブルを接続しない

ケーブルの両端をネットワーク機器に接続すると、出口のない通信パケットがネットワーク内で増大し、フロア全体や建屋全体が通信不能になるなどの重大な障害が引き起こされます。利用しないケーブルは機器から取り外してください。

古いハブ、壊れた LAN ケーブルを使用しない

ケースがプラスチック製のハブ(HUB、Switch)は、経年劣化により熱暴走などを引き起こし、フロア全体の通信障害の原因となることがあります。また、配線やコネクタの軽微な損傷も通信トラブルの原因になることがあります。導入後の年数やスペックなどを確認し、適宜、買い替えましょう。

→ **金属製ケースのハブがオススメ**です。放熱に優れ、安定して長く使えます。
詳しい型番などは下記窓口にお問い合わせください。

研究室内のルータの設定・接続を正しく行う

研究室で個別に設置したブロードバンドルータ、無線LANルータのDHCP機能の誤設定により、フロアや建屋全体での通信障害につながる場合があります。ネットワークケーブルが正しく接続されているかを点検してください。

→ **「WAN」「LAN」を間違えると障害が発生します!**

古いOAタップの使用、定格電流を超えた使用や、
タコ足配線は**火災の原因になります**ので、注意してください。



注意

PCは最新の状態にアップデートしてください

OSの脆弱性を狙ったランサムウェア（感染したPCで、ファイルをすべて暗号化したうえで、身代金を要求するソフト）による被害が世界的に報告されています。利用しているPC、端末のOSやウイルス対策ソフトのアップデートし、常に最新の状態を保つようにしてください。私有のノートPCでも、大学配布のウイルスバスターをインストールすることができますので、是非活用してください。

現在、Windows XP、Vista、8及びMac OS Xは、メーカーのサポートが終了しています。これらのOSをお使いの場合は速やかにアップグレードを行ってください。

現在利用可能なOSは、Windows 10、8.1、7及び macOSです。

PC等を廃棄する際はデータの消去をしてください

廃棄するパソコン等からの情報流出を防ぐため、ハードディスク、SSD等の記録媒体の破壊装置、消去装置を利用してください。下記窓口にお持ちください。

情報システムに関する全学問合せ窓口

メール ict-support@o.kaiyodai.ac.jp 内線 0446

附属図書館（品川）1階事務室内（担当：学術情報課情報企画係）

大学配布ソフトウェアの入手方法 <http://support.ipc.kaiyodai.ac.jp/>

